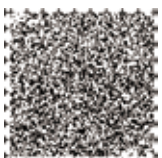


久留米

輝くものづくり企業事例集

積み重ねてきた知恵と技



刊行に寄せて



中小企業・小規模事業者は、全国三千万人を超える従業員の雇用を支える、日本経済の屋台骨です。そして、きらりと光る独自の技術や優れた経営戦略を持った企業も数多く存在し、我が国の国際競争力と経済活力の源泉になっています。

一方で、優れた中小企業・小規模事業者の中には、その能力を十分に発揮し切れていない、外から知られていないといった企業が存在しています。中小企業庁では、「はばたく中小企業・小規模事業者300社」や「はばたく商店街30選」などの事例集の発行や、優れた企業に対する中小企業庁長官賞の表彰等の取組を行ってまいりました。こうした取組によって、優れた企業に光が当たり、その価値

中小企業庁長官 安藤 久佳



生産性が高く、安定した雇用を生み出す「ものづくり産業」は、地域の経済を支える重要な産業です。福岡県には、鉄鋼、化学などの素材型産業や機械・電子部品、自動車などの加工組立型産業、県内の良質な農水産物を活用した食料品製造業など、幅広い分野のものづくり産業が集積しています。

県内有数の「ものづくり拠点」である久留米市は、従来からゴム製品などの製造業や、久留米緋など繊維産業が盛んです。また、自動車メーカーの開発・生産拠点をはじめとする自動車関連企業や大学発の技術シーズを活用したバイオ関連企業など、高い技術を誇るものづくり企業が多数立地しています。

福岡県知事 小川 洋

を存分に発揮して活動していただくことが、日本経済の更なる発展につながると考えております。

久留米市は歴史的に「ものづくり」が盛んであり、日本の産業界に功績を残した人物も数多く輩出していると承知しています。また、現在でも「ものづくり」のまちとして栄えるとともに、市をあげて産業育成に取り組んでいらっしゃいます。

今回の事例集の発行が、久留米市の優れた中小企業・小規模事業者に光を当て、販路拡大・取引拡大、企業間の連携促進、地元企業の人材確保等、更なる発展につながることを心より祈念いたします。

県ではこうした強みを生かし、久留米市と連携して、バイオ産業の育成・集積を目指す「福岡バイオバレープロジェクト」を推進しています。また、福岡県工業技術センター生物食品研究所内に整備した「ふくおか食品開発支援センター」を核に、食品の加工から評価・助言まで一連した試作開発支援などを行ってまいります。今後も市町村と連携し、県内ものづくり企業のさらなる発展に向けて、しっかりと支援してまいります。

最後に本冊子が、多くの方にとって久留米市の優れた「ものづくり企業」を知る良い機会となり、久留米市のものづくり産業に関する理解が深まることを期待します。



ご挨拶

久留米市は、豊かな自然に囲まれた県南の中核都市であり、農商工医学がバランスよく存在する魅力あるまちです。

現在、本市では「久留米市地方創生総合戦略」に基づき、「住みやすさ日本一」を目指し、関係機関と協力しつつ、様々な産業施策等を総合的に推進しています。

工業面をみますと、本市は、ゴム、自動車、バイオ、食品、生産用機械など多様な産業が集積する県内有数の製造拠点であります。

また、個々の企業をみますと、豊かな知恵、斬新な発想、優れた技術を持つ、魅力あふれる「ものづくり企業」が数多くあります。

今般、こうした特長ある取り組みとその背景を「久留米 輝くものづくり企業事例集～積み重ねてきた知恵と技～」としてまとめました。

地元企業の特長ある取り組みの素晴らしさと、それを育んだこの地の豊かさ、歴史の深さをぜひ多くの方に知っていただきたいと思えます。

そして、ものづくりに携わる方々の新たな取り組みや企業間の連携が促進され、将来に向けて、幅広い世代の活躍の場が益々広がることを期待するとともに、市としても地域の魅力を向上させ、雇用を生み出す企業等を引き続き全力で支援してまいります。

最後に、本冊子の制作にあたり、幅広い見地からご検討をいただきました選定委員会の皆さま、並びにご協力いただきました関係機関の皆さまに心から感謝申し上げます。

久留米市長 大久保 勉

久留米

ものづくりのDNA



久留米絣



田中久重が製作した「太鼓時計」をモデルにした「からくり太鼓時計」

いつも、挑戦してきた。
失敗してもひるまずに、
明日^{まえ}だけを見ていた。
筑紫次郎の流れのように
絶えることなく
受け継がれ、次代につながる
ものづくりのところが、
久留米
ここにある。

製造業発展の礎

日本三大あばれ川の一つに数えられる筑後川の流域に栄えてきた久留米市。古代には筑後政府がおかれ、時代がくだって江戸時代には有馬21万石の城下町だった。明治4年の廃藩置県で成立した久留米県が三藩県となり、県庁所在地は久留米におかれた。筑後川がもたらす沃野によりこの地に一大穀倉地帯が形成され、その「水運」は産業の集積・発展をもたらした。久留米は古代から筑後地域の中心でもあった。

明治22年、日本で初めて市制が施行されたとき、全国の30市とともに「久留米市」が誕生。明治30年、歩兵第四十八師団司令部が、その後第十八師団司令部が設置された。そのおかげもあり、道路が整備され、兵員の家族親類が数多く訪れるため観光産業が発達した。交通網の整備は、絣や足袋といった地場の製造業の発達を促す。足袋産業は地下足袋の開発によりゴム製品生産へとつながり、さらに製造業が発展していく。

絣と蒸気機関、久留米が輩出した幕末の発明家

製造業発展の萌芽は、幕末の久留米藩に見られる。久留米藩は、殖産興業を掲げていた。その主要産業の一つが絣で、慶応元年（1868）ころには年間6万反を藩外へ「輸出」して大いに藩の財政を助けた。

その久留米絣を発明したのは、わずか12〜13歳ぐらいの少女・伝。伝は、それまで地味な紺一色だった生地を白い模様を織り出し評判をとった。結婚して井上伝となったが夫と死別、伝は機織りとしてさらなる挑戦を重ねていく。木や風景などを布に織り込む「絵絣」を何とかうまく織れないかと思案した伝が相談したのは、「からくり儀右衛門」とあだ名されていた田中久重だった。伝26歳、久重15歳。わずか9歳で「開かずの硯箱」を作るなど奇想天外なアイデアで周囲を驚かせていた久重は、工夫を重ね、伝の要望に応えたという。

久重は、佐賀藩に招かれ、日本で初めて蒸気機関の汽船・汽車の模型や西洋式大砲を製造。一時は久留米藩でも大砲製造などに携わった。その後上京し、株式会社東芝の前身となる電気機械製造の工場兼店舗を開業。時に明治8年、久重は76歳になっていた。その看板にいわく、「万般の機械考案の依頼に必ず」。久重の「ものづくり」への気概が伝わってくる。

足袋からスニーカーへ。たゆまぬ開発と開拓

明治維新を迎え、家禄というかたちの俸給を失った士族の家族のなかには、久留米絣の機織りを内職とするものもいた。久留米絣ブランドの確立、品質向上のため工程は分業化され、機織り工場も開設された。また「手工業」ではあったが、「ものづくり」都市・久留米には、近代工業への素地が培われていたといえる。その後ムーンスター、アサヒ、ブリヂストンのいわゆる「ゴム3社」が生まれ、久留米は「ゴムのまち」と呼ばれるようになる。

明治6年、ムーンスターの前身である「つちやたび」が誕生。創業者倉田雲平は、もともと足袋職人。足袋以外の軍需品供給に乗り出して大失敗し、無一文になってからは、足袋一筋に事業を拡大していった。明治27年、日本で初めてミシンを使った足袋の大量生産を開始。さらに事業拡大を図り、九州の足袋市場制覇をもくろむ。奇抜な看板、新聞広告、チラシ、のぼり旗な



県立明善高校横にある、「明治天皇久留米大本營」の石碑



純国産第一号タイヤ開発時



しまや1号地下足袋



つちやたび初期販売分

ど多彩な広告でつちやたびの知名度は一気に上っていった。
大正7年、3代目社長に就任した倉田泰蔵は、アメリカ製のキャンパスシューズをヒントに足袋にゴム底を張り付けることを思いつく。この地下足袋開発は、その後の運動靴開発につながる。昭和の初めごろからは、月星マークを掲げて輸出を開始。社名は変わっても、たゆまぬ研究開発を重ねる姿勢は変わらず、今日のムーンスターへとつながっている。

履物界の一大革命、久留米から

つちやたび創業から9年後の明治25年創業した仕立屋「志まや」は、アサヒシューズの前身。創業者石橋徳次郎の二人の息子たち・重太郎（のちに2代目徳次郎）、正二郎の時代に足袋専業となった。当時の足袋は必需品であり消耗品。商品の回転が速い。足袋の市場拡大を見込んだ正二郎が、足袋専業を決めた。

事業発展の秘策として、志まやは全サイズ均一料金を打ち出す。サイズごとに価格が違うのが当たり前だった当時、これは画期的戦略だった。大正7年には日本足袋と社名を変更。大正9年株価が暴落、不況の中で大量の在庫を抱えることになる。経営陣は、ひるまない。工場閉鎖やリストラではなく、新たな商品をつくることをだけ考えた。苦境を乗り切る策は、マーケティング、顧客ニーズの情報だ。足袋に求められるのは、丈夫で長持ち。正二郎は、アメリカ製のテニス靴を参考に地下足袋を考案した。当時、履物界の一大革命と言われた地下足袋を、奇しくも久留米の2つの会社が同時期に開発したことになる。

初めての純国産タイヤ、久留米から世界へ走る

地下足袋に欠かせないゴム。ゴム製品で今後大きく伸びるものは何だろう。新たな挑戦を正二郎は始めようとしていた。アメリカなどの状況から、将来自動車の需要が伸びると確信した正二郎は、国産タイヤ製造を決意。昭和4年、世界恐慌の真ただ中に、日本で初めて純国産タイヤの試作が始まった。昭和5年、国産タイヤ第1号が完成。商品名は将来の輸出を想定し、英語名に。

姓の石橋から「ストーンブリッチ」、語呂がよくないということで「ブリッチストーン」、これが翌年社名となった。

タイヤづくりは決して順風満帆とはいかなかった。しかし返品とクレームの山を築きながらも改良を重ね、昭和7年にはついに、商工省から優良国産品の認定を受けるほどに。昭和9年、操業を開始した久留米工場は、今やグローバル企業に成長したブリチストンのマザー工場として稼働している。

正二郎はまた、教育や文化の向上に強い関心を寄せていた。子どもたちの楽しみと体育向上のため、久留米市の全小学校に水泳プールを寄贈したほか、美術館や文化ホールを擁する石橋文化センターの建設寄贈、九州医学専門学校（現久留米大学医学部）設立時、敷地や校舎の寄付など…久留米のまちのそこそこに、正二郎が残した地域貢献のあとを見ることが出来る。

努力を重ね技術を磨く、多種多様な久留米のものづくり

筑後川の水運、豊かな筑後平野、近代の産業発展を支えたゴム3社の存在などを背景に独自の進化を遂げてきた久留米のものづくり。現在、出荷額にして年間約3000億円、域内総生産の約1割を占める。その内訳は、機械、電子機器、化学、食品と、ゴム以外にも実に多種多様だ。

ゴム産業の工程を担いながら独自の技術や市場を確立した企業や、地場産業である絆を発展させた企業。なかには一般には目にする機会がない金型や部品の一部に特化した企業もある。一方で、道路標識や大手コンビニの商品など、一般の人が意識することなく、しかし直接目にし恩恵を受けている製品を作る企業も。

それぞれが、変わり続ける社会環境と顧客のニーズに応えるべく努力を重ね、今日を築いてきた。業種・業態に関わらず、そこには一貫した姿勢がある。常に「さらなる高品質」「さらなる満足」を求め続ける、ものづくりの心意気だ。150年近く前、田中久重が胸を張って言い切った「万般の機械考案の依頼に応ず」の言葉通り、技術を磨き、顧客の困りごとを解決してきた久留米のものづくり企業。静かに、しかし確かに、久留米のものづくりが、輝きを放つ。



chapter 1

久留米のものづくり企業

久留米
輝くものづくり企業事例集
積み重ねてきた知恵と技

目次

巻頭ご挨拶 1

久留米ものづくりのDNA 2

電機機械/装置

アイスマン株式会社 8

株式会社アークライズジャパン 9

株式会社ウエイクフィールド 10

株式会社栄電舎 11

北原ウエルテック株式会社 12

株式会社九州栄電社 13

株式会社ケンコントロールズ 14

コックス株式会社 15

四恩システム株式会社 16

大電株式会社 17

高木鉄工株式会社 18

武井電機工業株式会社 19

津福工業株式会社 20

株式会社日本風洞製作所 21

株式会社富士製作所 22

株式会社森鐵工所 23

LEシステム株式会社 24

食料品/飲料

兼貞物産株式会社 25

株式会社巨峰ワイン 26

サクラみそ食品株式会社 27

株式会社種商 28

福德長酒類株式会社久留米工場 29

ブレットサンフーズ株式会社 30

ベストアメニティ株式会社 31

株式会社紅乙女酒造 32

丸永製菓株式会社 33

株式会社森光商店 34

合資会社若竹屋酒造場 35

プラスチック/化学

兼定興産株式会社 36

株式会社九州メディカル 37

株式会社創世エンジニアリング 38

株式会社日本生物製剤 39

ビジョンバイオ株式会社 40

株式会社ボナック 41

まるは油脂化学株式会社 42

ムライケミカルバック株式会社 43

金属製品

伊藤産業株式会社 44

有限会社江口へら鉸り製作所 45

株式会社古賀歯車製作所 46

株式会社東洋硬化 47

平井鍍金工業株式会社 48

株式会社松本商店 49

三原機工株式会社 50

ゴム製品

アサヒシューズ株式会社 51

株式会社東和コーポレーション 52

中島ゴム工業株式会社 53

日米ゴム株式会社 54

株式会社ブリチストン久留米工場 55

株式会社ムーンスター 56

繊維/パルプ/木材・木製品

株式会社オカモト商店 57

有限会社ないと 58

株式会社西原糸店 59

株式会社丸栄紙管 60

株式会社丸信 61

etc その他

渋田瓦工場 62

株式会社シマブン 63

橋本事務機株式会社 64

ピコム株式会社 65

株式会社モリサキ 66

A&Mコレクション 67

V C工業株式会社 68

久留米市ものづくりデータ 70

久留米市ものづくり企業マップ 72

奥付 76

本書の読み方

業種アイコン

この企業のスゴイ点、
こだわりぬいた部分の
エピソードなど

企業の基本情報

企業の公式サイトに
リンクしたQRコード



最先端の理化学機器で
病態研究や創薬開発に貢献



久留米の地から 人々の健康に資する技術を

**速く正確な測定と、
低コストも実現**
株式会社アークライズジャパンが開発しているのは、神経伝達物質を測る機器。精神・神経疾患等の脳病態の原因については、現代の脳科学研究でもまだまだ解明されていないことも多いのですが、神経伝達物質(グルタミン酸、ドーパミン等)のバランスの乱れが影響していると考えられています。
同社は、生物が生きのままの状態で、神経伝

達物質の変化を測定する「マイクロダイアリシス」という方法を用い、グルタミン酸やGABAなどの脳内神経アミノ酸をはやく、きれいに測定できる理化学機器を製作。統合失調症、アルツハイマー病などの精神・神経疾患の創薬開発に有用なツールになると期待されています。
同様の測定器はこれまでもありましたが、同社は、マイクロダイアリシスサンプル中の脳内アミノ酸の測定に特化。そのことで他社との差別化を図り、また光源に発光ダイ

オードを用いることで、導入後の光源交換が不要となり、低コスト化も実現しました。
人々の健康な暮らしをサポート
井尻社長は、かつて大学(薬学部)で教鞭をとっていた際、様々な研究者と出会い、マイクロダイアリシスに大きな可能性を感じたそうです。より安価で使いやすい測定機器を提供することで、研究者をサポートしたいという思いから創業しました。「久留米の地を選んだのは、医療機関が集積し、医療分野の先進的な土地だから。当社の機器を使うことで脳病態の研究や創薬開発が進み、世の中の人が健康な暮らしを送るためのお手伝いがしたい」井尻社長はそう語ります。

マイクロダイアリシス機器



設立 平成29(2017)年
資本金 100万円
本社所在地 久留米市百年公園1-1
代表者 代表取締役社長 井尻 聡一郎
従業員数 2名
事業内容 マイクロダイアリシス機器および消耗品の開発・販売
マイクロダイアリシスサンプル、臨床サンプルの分析業務

公式サイトはこちら!



氷製造のプロフェッショナル
大型製氷機国内トップシェア



開発と革新により 常に最高性能を

一品一様の受注生産がメイン
漁港や大型漁船などで使用される、何十トンもの氷を作る大規模な製氷機や、スキー場の人工降雪機を製造するアイスマン株式会社。約50年前、先代社長が輸入品の製氷機や冷凍庫などの修理を請け負ったことから始まった企業です。
その後、プロイラーの消費が増えたことで、鶏の処理過程で必要となる冷却水の需要が高まり、現在も主力商品であるフレック(薄い氷製

氷機を開発しました。
今では、あらゆる業界からのニーズに応じた一品一様の受注生産がメイン。氷の自動搬出装置の開発製造や、残氷を残さずに氷全量を24時間自動販売できる大型フロントの設計・施工など、アイスマンの製品は、シンプルながら構造で非常に丈夫で壊れにくく、日常的なメンテナンスが容易であることが高く評価され、現在、日本国内はもちろん、世界約50カ国で使われています。

顧客の声がアイデアの種
「顧客のニーズを的確に捉え、最初から無理だと決めつけずにアイデアを出して挑戦してみるのが社風。そうやって同業他社にはない商品開発力を蓄積できたことが強みです」と、秋山社長は話します。
自然雪に近い人工降雪機や、ローコストと省エネを実現した氷自動搬出装置など常に新しい技術開発に力を注いでいます。最近では、環境にやさしいノンフロン仕様の製氷機も開発。省エネ効果がアップし、溶けにくく硬度と透明度が高い氷の製氷に成功しました。
「今後もさらに新商品を増やし新しい市場を生み出していきたい」と秋山社長。アイスマンは未来を見据えて走り続けています。

公式サイトはこちら!





生産工場オートメーションを トータルプロデュース

設立 昭和33(1958)年
 資本金 4,050万円
 本社所在地 久留米市津福本町南津留2348-8
 代表者 代表取締役社長 松林 英雄
 従業員数 188名
 事業内容 製造工場向け制御盤・配電盤の設計、製造、据付工事、試運転

公式サイトはこちら!



世界を股にかけ、生産現場の 効率アップに貢献

要望を具体化する「概念設計」

生産工場の自動化制御システム設計、ソフト開発ハードウェア製品の製作などを行う株式会社栄電舎。効率的な生産計画には、工場オートメーションの設計が大きく影響します。私たちは、お客様からの要望を受け、徹底したヒアリングで設計を行い、製作、設置、試運転、メンテナンスまで電気機器に関するサービスをトータルで提供できることが強みです。と話すのは、松林社長。

シや要望をどのように実現するか。この工程を概念設計と呼び、多くの時間を費やすことが特長です。工事と試運転においても、設計チームと工事グループが一体となって施工します。要望通りのシステムを最短で立ち上げ、操作方法も、お客様が完全に理解できるまで、丁寧な説明を行っています。

30カ国以上を飛び回った社員も

お客様の海外展開に合わせて、栄電舎の業務も海外に拡大。お客様が海外に工場を設立する際には、栄電舎も多くの社員を派遣して

います。中には、30カ国以上に飛んだ経験を持つ強者も。「お陰様で、お客様からは『どうしても栄電舎でなければ』や『日本から飛んで来てほしい』という声を頂くなど厚い信頼を得ています」と松林社長。「一般の方に広く知られている製品を扱っているわけではないかもしれませんが、当社の社員は、一人ひとりが自分の仕事、製品サービスに誇りを持っています。それは、私たちが手掛けるソフト開発やシステム設計が、すべてお客様それぞれに合わせたオンラインワンだから。お客様の、こうしたい、こうすれば、というご要望を叶えたいという私たちの思いが形になっているからです」。

デスク型操作盤



久留米に魅力を感じ、移転
 株式会社ウエイクフィールドは、昭和53年に横浜市でマリナーベイ業務を扱う会社として設立されました。代表取締役のB・Lハンソン氏が元機械エンジニアだったことから、お客様の依頼で船舶エンジン部品等の修理業務を行ううち、次第にそれがメインの業務となっていました。昭和61年、船舶エンジン用シリンダーライナーのホーニングマシンを自社開発しました。ホーニ

ングマシンとは、主に加工対象物の内径を精密に研磨する工作機械のこと。以来、海洋ディーゼルおよびガスエンジンの整備、機械の開発、設計、販売や、メンテナンスサービスを展開しています。顧客が九州に多かったこともあり、ものづくり企業が集積している久留米に魅力を感じ、本社を移転したのは平成26年のことでした。

お墨付きの高性能と信頼性

現在の主力商品は、船舶エンジン部品のメンテ

ランスに使われるホーニングマシンと排気弁等の研削盤。機械自体が頑丈で壊れにくいことに加え、専門的な操作が不要のため、船舶の乗組員自身でエンジン部品のメンテナンスが可能。そしてシンプルな構造のため故障しにくいのも特色です。平成15年、同社の排気弁研削盤が日本のメーカーとして初めてデンマークのMAN B&W Diesel A/Sの認証を受けました。MAN社は世界の約8割の船舶がそのエンジンを搭載している世界最大手の船舶エンジンメーカーです。これにより、当社製品への信用度が飛躍的にアップし、他の商品の取引拡大にもつながりましたとハンソン社長。

現在はさらに、お客様の依頼を受け、燃料弁ガス噴射弁の性能を検査するための試験装置を開発中。洋上で働く船舶を久留米の企業が支えています。

高いメンテナンス効果で 取引拡大



ポータブル・ホーニングマシン 国内トップシェア



HMA-EXS & HMA-EXL シリンダーライナーホーニング&デグレーシング機

設立 昭和53(1978)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市山川安居野3-7-23
 代表者 代表取締役 B・Lハンソン
 従業員数 2名
 事業内容 海陸ディーゼルエンジン用整備機械の開発・設計・製造・販売

公式サイトはこちら!





技術と品質に高い信頼
制御システムの開発・製造



新たな技術で 明日を創造する

一品一葉のカスタマイズが強い
株式会社九州栄電社は、ビル、公共施設、プラント、各種工場などの電気設備における制御盤、配電盤、分電盤の製造や制御システムの開発などを行う企業です。「お客様からヒアリングを行って仕様を聞き取り、設置スペース、電力、電圧、製造ラインなどを把握して、一品一葉のカスタマイズ製品を製造できるところが当社の特長です」と飯笹社長。顧客の要望に柔軟に対応でき、現地設置後の立ち上げから

IoTも積極導入
大手プラントメーカーと協力し、インフラ整備の開発も展開。浄水場、処理施設、最終処分場などの設備や、新エネルギーのひとつであるバイオマス発電設備など、環境保護に寄与するための技術の構築について、制御設計とシステム設計の技術協力をしています。

また、数年前からはIoTも積極的に活用。二河川の水位を携帯端末などで監視し、緊急時にはポンプの遠隔操作が可能なシステムの開発を行い、お客様に活用頂いています。こういった各種ネットワークを使ったシステム開発も得意としているので、プラントなどの電気設備を一手にお引き受けすることが可能です」と飯笹社長。
公共インフラ、学校、病院への数多くの納入実績も、九州栄電社の技術と品質への信頼の高さを表しています。

動力制御・自動制御盤



設立 昭和53(1978)年
資本金 2,000万円
本社所在地 久留米市藤光町字枝光735-17
代表者 代表取締役 飯笹 学
従業員数 40名
事業内容 制御盤、分電盤、受配電盤などの電気機器類の設計・製造、電気制御システムプログラミングおよびタッチパネル作画など

公式サイトはこちら!



ロボットも、熟練工の技術も駆使し
拡大する半導体業界を下支え



精密板金加工から組立まで 「世界最高を、世界最速で」

一社で組立までを可能に

昭和25年、板金加工業としてスタートした北原ウエルテック株式会社。創業以来、様々な金属加工製品を手がけ、現在は、半導体製造装置の筐体(箱)部分の製造と販売を主な業務としています。

「お客様からの依頼で、他社で製造された電子部品等も当社に集め、筐体パーツと合わせたユニットを組み立て、加工して納品することが増えています」と話すのは、一ノ瀬総務部長。板金加工だけでなく、設計、機械加工、組立、メンテナンスなど、一括受注体制になっているところが北原ウエルテックの特長。複数の会社に依頼するところが一社で済み、お客様にとっては、手続きやコスト面でも大きなメリットがあります。

生産の効率化・省エネ化も推進

近年ではスマートフォンをはじめ、自動車や家

電にも半導体が使用され、受注が増加。それに伴い、工場内の効率化も進めています。3DデータからプログラムしたCAM(コンピュータ支援製造)が自動で配置割り付けを行い、端材も管理。金型を自動で交換する加工や材料棚と連動した加工で、夜間自動運転を可能にしています。
さらに、溶接ロボットを導入することで、溶接作業の7割を自動化。しかし、精密板金加工にはさまざまな技術が集約された工程が必要のため、残りの3割は熟練工が作業にあたっています。
現在は、樹脂加工(プラスチック成型)工程も完備。内製できる部分の増強を図っています。
モットーは、世界最高のものを世界最速で。当社に発注頂ければすべてが事足りる、そんなトータルソリューションファクトリーを目指しています。

公式サイトはこちら!





スマートテクノロジーを生かした無線通信、光デザイン・ソーラー発電などの商品開発



連係サインマーカー「NETIS:QS-160050-A」



サインプレートBATT model7560



設立 平成元(1989)年
 資本金 3,276万円
 本社所在地 久留米市百年公園1番1号研究開発棟3F
 代表者 代表取締役 廣瀬 栄一
 従業員数 11名
 事業内容 電子部品・デバイスの開発製造

公式サイトはこちら!



3S(シルバー・スクール)セキユリテイ)で社会貢献

技術者の駆け込み寺

「大企業では自分が思ったような研究開発ができない。好きなものづくりをやることで、社会に役立つ」と。廣瀬社長がそんな熱い思いを胸に大手電機メーカーから独立したが、平成元年のこと。省電力のための回路・ソフトウェアの開発と無線技術に精通していたことで、時代のニーズをうまくとらえて実績を重ねてきました。主な製品開発分野は、太陽電池応用機器、無線通信応用機器(通信システム等)、光応用機器(サインプレート等)。

先進的な視線誘導灯を開発

コックス株式会社の技術力によって実用化された製品が、道路等に設置する視線誘導灯(製品名サインマーカー)。太陽光を利用して光を発して、自動車、歩行者に注意喚起する。

自製品です。既に高速道路の逆走防止サイン、湾岸護岸用の転落防止サインとして広く採用されています。サインマーカーの大きな特徴は、太陽光発電による自発光式のため、省エネで電池交換が不要な点。そのため設置コストが低く、無線によるサインマーカー同士の連係点滅・消灯が可能です。さらに完全防水、段差にも容易に設置できるなど多くの利点から普及が進んでいます。今後のプロジェクト・テーマは、3つのS(Silver=高齢者)、(School=子ども)、(Security=安全)。困っている人をエレクトロニクスの応用でサポートし、安全な社会環境の整備に役立てるといって視点を、新規事業開拓に乗り出しています。



F/A時代に躍進 技術で社会に貢献を

設計からメンテナンスまでの一貫体制

「機械を使って物を運ぶ。創業者は皮紐で使用するトロッコや巻き上げ機械の制御装置の製造を手掛けていました。そのことが、株式会社ケンコントロールズが、現在、国内有数の産業用無人搬送ロボット専門メーカーとなった技術力の原点となっています。同社の強みは、搬送ロボットの設計、製造から設置、メンテナンスまで一貫して行える点です。」

AI制御システム開発へ乗り出す

同社は社員の8割が高度な専門知識を持つ技術系集団です。これまで主に自動車や半導体関

主力商品は多様なニーズに対応可能な自社製品AGV「shifty」。製品のほぼ9割がオーダーメイドによる開発・製造のために、現場と密接にかかわることが求められます。これにより蓄積したノウハウ・経験が、新たな工場自動化設備の技術開発に結びついています。

連産業へ、多くの納入実績があります。また、近年は医療機関や自動化が進む食品業界からの需要も年々増加するほか、EC(電子商取引)の拡大を背景に、急速に需要が増している物流分野(物流倉庫等)への参入も着々と進んでいます。

一方、搬送ロボットの制御方法についても、システム開発を行うベンチャー企業と提携することで、従来の磁気テープ方式からAIによる制御システムの開発にもチャレンジ。未来を見据えた技術開発に取り組んでいます。

技術の高度化と人手不足を背景にした製造現場のFA化により、搬送ロボットの需要は今後もますます増えると予測されています。こうした社会環境の変化にしっかりと対応し、技術で社会に貢献していきたいと考えています。



カスタマイズ性の高さが強み 搬送ロボット専門メーカー



無人搬送車(AGV)shifty



設立 昭和55(1980)年
 資本金 3,000万円
 本社所在地 久留米市三瀬町田川1460-1
 代表者 代表取締役社長 田端 秀丞
 従業員数 50名
 事業内容 工場自動化設備(無人車、自動制御装置等)の製造・販売等

公式サイトはこちら!





ロボット用ケーブルで国内シェアNo.1*

※(株)富士経済「2018ワールドワイドロボット関連市場の現状と将来展望」による



ロボット用ケーブル

人と技術をベースに新しい価値の創造

九州初の電線製造会社として発足
大電株式会社は、昭和26年、当時の電気通信省(現NTT)の要請によって九州初の電線製造会社として発足しました。「大電」という社名は、大手タイヤメーカーから転身した創業者吉田直大氏の名前から取るとともに「電気や電線を基幹に幅広い分野への事業展開を図りたい」との思いからつけられています。創業以来、多岐に渡る高品質な電線、電力機器を開発し、電力・通信インフラ事業などで幅広く

九州初の電線製造会社として発足

利用されてきました。

昭和57年、F A ロボットケーブル事業にいち早く参入。独自の技術力が市場の高い信頼を得て、現在では国内の産業用ロボットの約4割で使用されるなど、圧倒的なシェアを誇っています。ロボットケーブルは自動車用や半導体用など、業種ごとに要求される特性が異なります。顧客の設計・要望に合わせて研究開発を進めてきたことで技術力を高め、様々な業種への納入に結びつけてきました。

高い技術力を支える研究部門

社員のおよそ1割が研究部門専任という技術開発型企業であり、先端技術との融合により、時代のニーズに対応し、未来を創造する研究開発に取り組んでいます。

光通信ネットワーク研究では、光通信をアナログ信号に変換するメディアコンバータを開発し、通信切断が許されない公共の施設で採用されるまでになりました。また、培った技術を活かし開発した船舶用油圧バルブは、耐久性、操作性に優れ、世界の海で活躍しています。「人と技術をベースに新しい価値の創造」という企業理念が社内の隅々まで脈々と息づいています。

公式サイトはこちら!



製造業へのコンサルティング業務サポートを実施



ものづくり企業紹介雑誌「なりわい」、四恩システムの作業風景

「なりわい」で高度な技術や熟練の技を持ったものづくり企業を紹介

「四恩」に込められた思い

「教育者になりたい」と二田社長。SEとして会社勤務の後、一度は高校で教鞭をとったものの一人を育てるために、もっと実践の場で社会の勉強をしたいという思いから起業。平成23年に立ち上げたのが四恩システム株式会社です。「四恩」とは「人」「社会」「自然」「命」のこと。四つの恵みに感謝し、仕事を通して人を育み、社会に貢献するのが会社のコンセプトです。

主に製造業向けのコンサルティング、IoTなど情報処理技術を得意とし、システムの設計・開発・製造を行っています。

九州のものづくり企業を応援

日々の業務の中で気づいたのは「地域には良い技術を持っている企業が沢山あるが、その存在が知られていない」と。そこで「同社は、ものづくり中小企業の発信と販路開拓を応援するため、九州のさまざまなものづくり企業の技術的

設立 平成23(2011)年
資本金 440万円
本社所在地 久留米市三瀬町田川1979-4
代表者 代表取締役 二田 純慈
従業員数 20名
事業内容 生産工場向けシステム設計、開発等

公式サイトはこちら!



独自の技術・サービスを持つ地域の中小零細企業
特定ものづくり技術基盤の12技術

九州全域の生産工場5000社*
ものづくり技術が必要とする企業
※約5000社(資本金2000万円以上・従業員20人以上)





業界最速レベルの処理能力を持つ レーザー加工機を開発



透明導電フィルムのスマートフォン形状加工例

設立 昭和41(1966)年
 資本金 9,830万円
 本社所在地 佐賀県三養基郡みやき町江口2617
 久留米事業所 久留米市津福本町2348
 代表者 代表取締役会長 武井 邦雄
 従業員数 137名
 事業内容 レーザー加工装置、FA、メカトロ装置、自動化装置、配電盤等
 受賞歴 平成29年中小企業庁「はばたく中小企業・小規模事業者300社」/平成29年経済産業省「地域未来牽引企業」/平成30年経済産業省「ものづくり日本大賞」(九州経済産業局長賞)

公式サイトはこちら!



アクリルプレートの加工例



多様な分野の産業機械を製造 小回りが利くオーダーメイド



設立 昭和41(1966)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市荒木町藤田1423-32
 代表者 代表取締役社長 高木 浩敏
 従業員数 42名
 事業内容 産業機械及び金型の設計・製造

公式サイトはこちら!



図面に見えない課題も 経験で培ったノウハウで解決

設計から据え付けまで一貫受注

高木鉄工株式会社の始まりは、明治時代。農機具の製造などを行って鍛冶屋でした。その後、大手タイヤメーカーの産業機械の製造を主に手掛けるようになり、現在では日本国内および海外の工場に納品しています。

当初は、タイヤの金型を製造していましたが、より付加価値が高いタイヤ製造装置に進出。現在は、さまざまな分野の産業用機械にオーダー

メイドに対応しています。

「設計から製造、組立、据え付けまで一貫して行えることが、当社の特長です」と話すのは、高木社長。「ものづくりの世界では必ずしもすべてが数値化できるわけではありません。図面通りに製作するのは当然ですが、それでも上手くいかないことも多々ある。設計、加工、組立、試運転の中で生じる問題を、これまでの経験から培ったノウハウやスキル、知識で解決できるのが当社の強みです。」

現場に「蓄積される知恵がある」

小回りが利き、判断が早いのも中小企業ならではのメリット。社員と社長の距離が近く、風通しが良いのが社風。お互いに何でも相談でき、課題に対し全員で解決に向かう姿勢があります。

大切にしているのは、「現場、現物、現実」。改善と実行を繰り返すことで見えてくるもの、そして蓄積される知恵があります。それをもとに、お客様へ、ものづくり企業ならではの提案ができるのも強みです。

ものづくりのまち・久留米で成長した企業として、地域雇用への強い思いも。これからも、地域の方に活躍できる場を提供し続けたいと思います」と高木社長は語ります。

独自開発が下請け脱却の転機に

私たちの生活に欠かせない各種デジタル機器製造に不可欠な技術の一つが、武井電機工業株式会社が開発したレーザー加工装置です。ディスプレイ用光学フィルムなどの切断に使用されます。「平成15年に、独自でレーザー加工装置を開発。それまでの下請け業務から脱却する大きな転機となりました。その後、研究開発を重ね、現在では当社の大きな柱のひとつに成長しています」と話すのは、桑原技術部長。平成22年には

太陽光パネル用レーザー加工機を開発。当時、全国トップクラスのシェアを誇る製品となりました。

フィルムを自在かつ正確に切断

さらに、平成27年には、デジタルデバイスのディスプレイなどに使用されるフィルムを切断する「光学フィルム用新型レーザー切断システム T L S M 3 0 1」を開発。機械加工によつて破損しやすいフィルムには非接触加工のレーザー切断が最適ですが、熱の影響を受けや

すいという課題も。「そこで、当社が得意とする機械学、電子工学、そして光学を融合した総合技術を武器に開発したのが、このシステムです。フィルム上に、強い集光性を持つレーザー光を自由かつ正確に走らせることができます」と桑原部長。

また、レーザー加工は、刃物切断にはできない半加工(半分の深さだけ切断)や、切断と同時に絶縁処理ができるといった特長があり、様々なフィールドで強みを発揮します。

FA機器や制御盤等の設計、製造、販売なども手掛ける武井電機工業。ますます進化する産業界を、提案力、技術力、そして開発力で力強く支えています。



光学フィルム用レーザー切断装置





世界初の市販化に成功 「2重プロペラ風力発電」

設立 平成28(2016)年
 資本金 5,608万円
 本社所在地 久留米市藤光町1147-1
 代表取締役社長 ローン・ジョシュア
 従業員数 7名
 事業内容 2重プロペラ風力発電機、風洞試験装置等の開発・製造・販売
 受賞歴等 平成30年福岡県ベンチャービジネス支援協議会「フクオカベンチャーマーケット大賞2018」(特別賞)

公式サイトはこちら!



「風を活用する」「風をしくりだす」 風にかかわる最新技術

発電量増と「コスト低減を両立」

株式会社日本風洞製作所は、世界で初めての「2重プロペラ風力発電機」の市販化に成功した企業です。

「2重プロペラ風力発電機」とは、前後に2層のプロペラを持つ新型の発電機。風力発電機1.5台分のコストで2台分の発電量を得られるため、風力発電の発電コスト低減の切り札として、40年以上前から様々な国で研究が進められてきました。

しかし、2組の羽の動力を1つの発電機に接続する技術が難しく、これまで市販化されたものは皆無。その壁を打破つたのが、日本風洞製作所のローン社長です。高校生の頃から風力発電の研究を始め、九州大学に進学後、風力、機械、航空力学、土木、各種法規など、様々な分野を横断的に学び、久留米の地で創業。同社が開発した「2重プロペラ風力発電機」の機構部とプロペラは、他社の従来品にも無加工で取り付けられるため、新規導入はもちろん、既存の風力発電設備にも導入できます。

アスリートの世界からも期待

社名に含まれる「風洞」とは人工的に乱れのない空気の流れをつくる装置のこと。同社では他にも、「小型風洞試験装置」を開発。空気抵抗が勝負に影響する自転車競技の世界で、選手の動作確認や製品の開発に活用されている他、自動車、住宅、スポーツウエア等の耐久試験での利用も期待されています。従来の風洞試験装置に比べコンパクトで、設置や利用コストが抑えられることが最大の特長です。

「風をつくりだす」企業は久留米の地に今まさに新しい風を吹き込んでいます。

風洞試験装置 Aero Optim-S



正確な製品づくりで 「感性」に響く仕事を

より精密な温度・湿度管理を

精密空調機を取り扱う津福工業株式会社。そのルーツは、大正時代に久留米餅の織機メーカーとして発足した津福鉄工所まで遡ります。昭和初期から冷凍機・アイスクリーム製造機等を製造。「冷やす技術」「温度管理技術」を徹底的に磨いてきました。

昭和50年代からは精密空調分野に事業をシフト。ほとんど全国の農業研究機関や大学医学部に製品が採用されています。

用されます。試験室の空調は、より精密な温度・湿度の管理が求められる世界。より高い水準に 대응することで、技術やノウハウの蓄積ができましたと津福社長は語ります。現在、公設試験研究機関、大学、民間企業の研究・開発や品質保持、メーカーの生産ライン、病院の手術室など、特に繊細さが要求される空調設備を得意としています。温度・湿度・気流・気圧・清浄度などの環境を精密にコントロールするシステム設計から、機器・装置の製造、供給までできるメーカーは、非常に少なく、同社の存在は大変貴重です。

「強みを活かすために」 「敢えて捨てる」

また同社は、限られた社内資源を最大限に発揮するため、「設計とメンテナンス・サービス」に特に注力しています。ニーズや課題が把握できる顧客との接点を残し、営業や工事、施工は可能な限り外部資源を活用するビジネスモデル。これができるのも、今まで育んできた幅広いネットワークと、各分野に精通した確かな設計・製作技術があればこそ。

製品同様、事業展開やビジネスモデルも綿密な計算のもとに構築されていますが、決してドライな印象とは違っています。「業務はデジタルに。正確迅速を心掛けています。でも最後は、人と人とのつながり。意外とアナログな「感性」に響く仕事を大事にしている会社です」。こんなところにも他に真似できない強みがありそうです。



隙間ニーズに特化した精密空調設備



設立 昭和38(1963)年
 資本金 4,500万円
 本社所在地 久留米市梅満町1202
 代表取締役 津福 一宏
 従業員数 37名
 事業内容 省エネ形恒温恒湿 AirPEXシステム、精密空調設備、冷熱空調機器製造・販売

公式サイトはこちら!





世界シェア40%超、唯一無二の
タイヤ成型ドラム専業メーカー



設立 昭和9(1934)年
 資本金 3,000万円
 本社所在地 久留米市大石町18
 代表者 代表取締役社長 森 春樹
 従業員数 36名
 事業内容 タイヤ成型ドラムの設計・開発・製造・販売
 受賞歴等 平成20年中小企業庁「元気なモノづくり中小企業300社」/平成25年経済産業省「中小企業！T経営力大賞」(経済産業大臣賞)/平成30年経済産業省「地域未来牽引企業」

公式サイトはこちら!



他の追随を許さない高い技術力で
唯一無二の生産機械を製作



設立 昭和42(1967)年
 資本金 2,500万円
 本社所在地 久留米市大善寺町宮本293
 代表者 代表取締役 三浦 晃義
 従業員数 45名
 事業内容 生産設備ライン、製造装置開発・設計・施工
 受賞歴等 平成30年経済産業省「地域未来牽引企業」

公式サイトはこちら!



要望に応える「設計力」と 実現するための「技術力」の融合

お客様に信頼されるパートナー企業へ

株式会社富士製作所は、昭和42年に創業した生産機械を製造する会社です。当初は、ほとんどが地元大手タイヤメーカー向けの製造機械の開発でした。しかし、現在では生産機械全般をオーダーメイドで手掛けるようになり、タイヤの他にも食品、製菓、電器、自動車、電力など国内外の多種多様な業界に展開しています。この躍進を支えるのが、顧客のニーズに応える優れた設計力と技術力です。例えば、

ば、同社製の混練機(ミキサー)。従来、ゴムの混練は、フローティングウエイトで加圧して、混練する製法(パンバリーミキサー)法が一般的でした。しかし、この製法では機械の掃除中に何らかの誤りにより、フローティングウエイトが落ちてくることがあり、この課題を解決するために開発したのが旋回ウエイト式ミキサーです。加圧蓋にアームがついており、後ろへ倒す構造になっているので、蓋が落ちる心配がありません。また、開口部が大きく、掃除は容易で安全。装置全体の高さが低いため、天井の低

い工場でも導入可能です。本製法は特許を取得しており、タイヤ業界だけでなく製菓業界等さまざまな業界から引き合いを受けています。「人や設備に対する投資を惜しまずやってきました。そのことが現在につながっています。お客様に信頼されるパートナーとなることで、相互の提案ができ、より良い製品がつくれます」と、三浦社長は語ります。

世の中にまだ無い製品を生み出す

同社のもつ一つの強みがチャレンジ精神です。将来は、航空機や宇宙産業など、より高度な技術と信頼性が求められる新たな分野にもぜひ挑戦したい。試行錯誤、切磋琢磨することで、社員が成長するのが嬉しいのです」と三浦社長。「世の中にまだ無い製品を生み出したい」とお客様の期待を超えるものづくりが同社の矜持です。

グローバルニッチトップ企業

明治38年創業の株式会社森鐵工所。歴史ある100年企業です。当初は農業用機械や一般機械を取り扱っていましたが、1930年代より、タイヤ成型ドラムの製造に着手。タイヤ成型ドラムとは、板状のゴム素材をタイヤのサイズに合わせたドラムに張り付け、圧力をかけてドーナツ状に加工する装置のこと。現在では、唯一無二のタイヤ成型ドラム専業メーカーとして国内外の主要タイヤメーカー

に製品を供給しています。輸出先46カ国、世界シェア40%超を誇る、地域発のグローバルニッチトップ企業です。

世界に羽ばたいた行動力と技術力

海外展開を牽引したのが森社長。同社の取引がほとんど国内だった時期から、将来的な国内市場の縮小を見据え、世界を相手に商売をすることを決断します。元商社マンの経験とバイタリティを発揮し、世界のタイヤメーカーの幹部宛に直接手紙を送り、少しでも反

「品質第一主義」 本物にこだわって世界市場をリード

応があれば現地でトップセールス。無償でのトライアル使用」を提案すると、使った企業からは、その後次々に注文が舞い込みました。同社の製品は、極めて高い製品精度を追求し、長期間使用しても故障知らずのメンテナンスフリーを実現。加えて消耗部品は世界共通のパーツのため互換性があり、お客様自身が現場で部品交換することが可能です。「中小企業は海外でのメンテナンスまで手が回りません。だから最初から壊れないような設計をすればいいか」と笑顔で語る森社長。逆転の発想とそれを実現する設計力・技術力が世界に羽ばたいた大きな要因でもあります。将来的にはタイヤ以外の新しい分野へのチャレンジも考えているとのこと。100年後も変わらずお客様に選ばれる会社を目指しています。





国内産原木乾し椎茸の取扱量 日本一

設立 昭和27(1952)年
 資本金 5,000万円
 本社所在地 久留米市御井朝妻1丁目5番23号
 代表取締役 平木 元治
 従業員数 84名
 事業内容 乾し椎茸卸、きのこ加工食品、食品開発・販売

公式サイトはこちら!



日本の伝統食文化を守り 発信する

椎茸のスペシャリスト
 昭和27年創業。乾し椎茸を専門に取り扱う卸会社です。地元で自販車での行商から始めた商いは、品質の良さや地道な営業努力で徐々に全国に販路を広げていきました。現在では国内産原木乾し椎茸の取扱量日本一を誇ります。
 「手間を惜しまず、とことんやる」。兼貞物産株式会社のモットーです。なんと選別作業は今でも手作業です。販路が広がるにつれ、商品のラインナップも昔に比べて大幅に増えました。自社

で細かく定められた約30種の品柄に合わせて、産地別、生産者別に丁寧に選別を行います。こうすることで品質を均一に保ち、安定した商品の供給が可能になります。色々と試行錯誤したが、選別だけはやっぱり手作業に勝る手段はないと平木社長は断言します。椎茸には個体差があり、大きさはもちろん、色、形、乾燥具合、質感など、機械では判別できない、微妙な違いがあるのです。人が丁寧に扱うからこそ、型が崩れて商品価値が下がることもありません。

日本の会社の責任
 同社は、業界でいち早くトレーサビリティシステムを導入しました。原材料の産地や生産者、選別工程、製造工程、最終検査、出荷、そして流通過程まで細かく情報管理しています。安全・安心な自然の恵みを、高品質な商品にして消費者へ提供する。顧客満足度を徹底的に追求する姿勢がそこにはあります。
 今後、生産農家の高齢化に伴う生産量の縮小も危惧されます。原材料確保のため、将来的には同社が椎茸生産に取り組むことも視野に入れています。「日本伝統の食文化を守り、未来へと発信していくことは、椎茸取扱日本一の会社としての責任であり、誇りなのです」。平木社長は力強く語られました。

原木椎茸栽培



「世界をエネルギーで満たしたい」 理念が支える革新的技術

電解液の低コスト製造を可能に

今、世界中で推進されている再生可能エネルギーの導入。しかし、太陽光発電等には、出力量が著しく変動するという課題があります。そこで必要となるのが、大容量の蓄電池。その蓄電池に着目し、佐藤社長が立ち上げたのがLEシステム株式会社です。

設立後、バナジウムレドックスフロー電池(VRFB)の普及を目指す中で確立したが、

電池に使われる電解液の原料であるバナジウムを、火力発電所で生じる燃焼煤から回収するという独自技術でした。これまでは、バナジウム市場価格が不安定で高額なことがVRFBの普及を阻害する要因となっていました。この独自技術によって、回収したバナジウムを使った低コストの電解液製造が可能となりました。

電解液の量産体制を整備

VRFBの研究から始まった事業は、現在

電解液の研究開発・生産が中心となっています。平成28年には、茨城県つくば市に研究開発等を行う事業所を設立し、今年12月には、福島県浪江町に電解液製造工場を稼働予定です。これにより、量産体制が整い、VRFB普及に弾みがつくことが期待されています。

LEシステムの創業は、蓄電池に着目した先見の明と、VRFBの開発に携わった技術者との出会いがきっかけです。当社の創業直後に発生したのが、東日本大震災です。はからずも従来のエネルギーシステムからの転換や非常用電源システム(蓄電池等)の重要性が社会的な課題となったことも運命的でしたと話すのは、佐藤社長。LEシステムの技術が、再生可能エネルギーの世界を大きく変えようとしています。

電解液



独自技術による燃焼煤からのバナジウム回収と電解液製造の開発

設立 平成23(2011)年
 資本金 10億3,000万円 (資本準備金2億2,000万円を含む) 2018年8月31日現在
 本社所在地 久留米市東合川2-3-39
 代表取締役 佐藤 純一
 従業員数 22名
 事業内容 バナジウムレドックスフロー電池セルスタック並びに電解液の研究開発・生産

公式サイトはこちら!





地域の食文化を支える
創業100年を超える老舗企業



設立 大正2(1913)年
 資本金 5,000万円
 本社所在地 久留米市梅満町高海1638-4
 代表取締役社長 野田 豊國
 従業員数 80名
 事業内容 みそ、調味料、乾燥天ぷらなどの製造・販売
 受賞歴 平成30年中央味噌研究所「全国味噌鑑評会」(審査長賞)

公式サイトはこちら!



優れた技術と発想で 暮らしに寄り添う食品を

業界初「合わせみそ」を開発
 サクラみそ食品株式会社は、創業大正2年の老舗企業。日本人の食卓には欠かせない「みそ」から始まり、現在は「みそ」「乾燥天ぷら」「麹製品」の3つの事業を展開。業界で初めて「米麦合わせみそ」を開発した功績は広く知られるところです。

当初は米みそと麦みそを混ぜていましたが、技術開発に取り組み、原料の仕込み時点で米麦の麹を合わせる合わせ麹製法を確立しました。米と麦では給水や温度などの条件が異なるため、同時に麹を作ることは高度な技術とノウハウが必要とします。

麹の可能性を探り、未来を創る
 平成4年には、他に先駆けて「乾燥天ぷら」の開発生産をスタート。カップ麺の具材として大手食品メーカーに提供しています。この新たなチャレンジは、同社が全国に販路を広げるきっかけになりました。現在、即席麺向け乾燥天ぷらは九州でトップシェアを誇り、スーパーや飲食

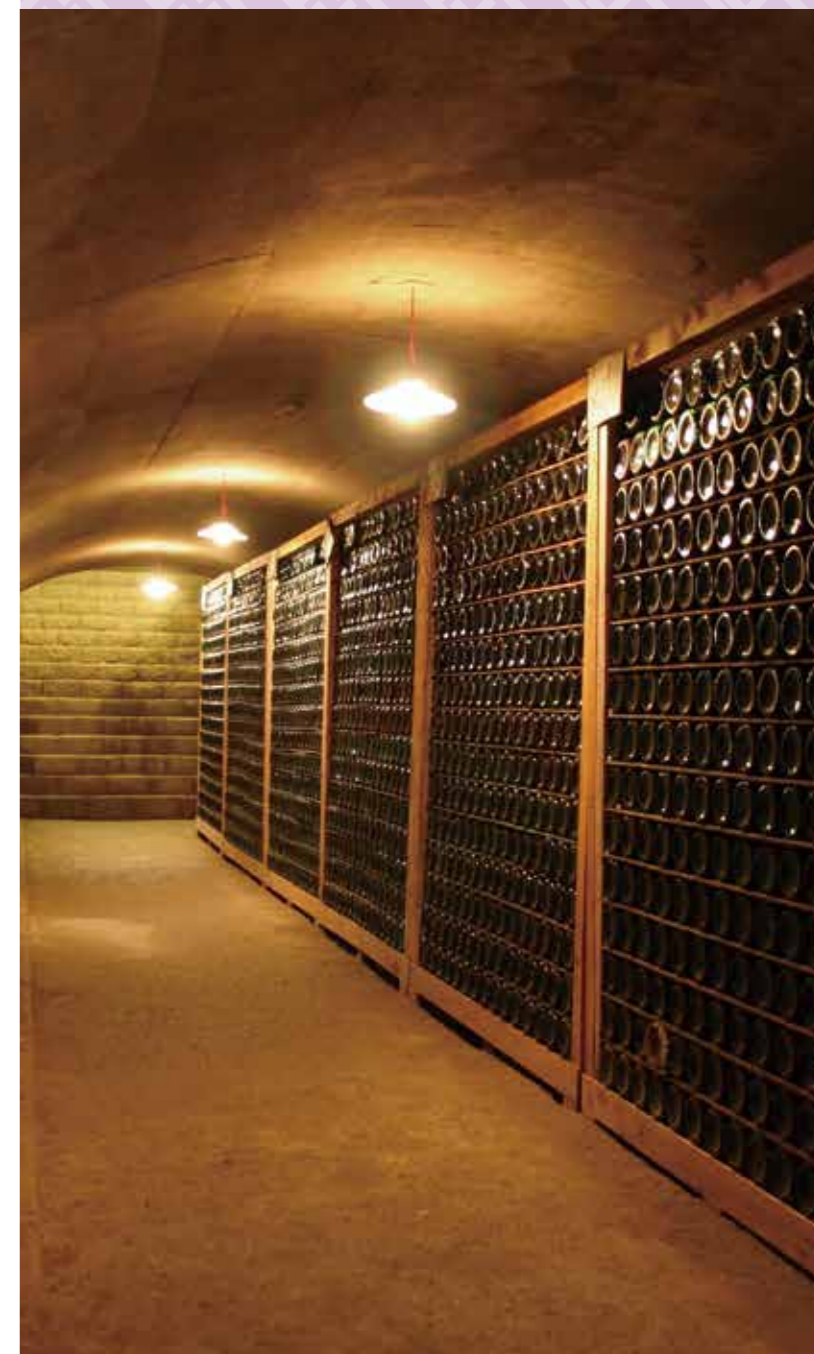
店等にも広がりました。「乾燥天ぷらは、食感・白持ち・見た目が重要。特に食感にはこだわりがあります。『ふんわり』『ざくざく』など商品によって製造方法を変えています」と野田社長。

また、同社のもう一つの柱である「麹製品」は、産学官連携で「麹プロジェクト」を立ち上げ、試行錯誤を繰り返して、食べる甘酒「こと」「甘酒ゼリー」を開発しました。スティックタイプにすることで、いつでもどこでも気軽に食べて頂けるように独自の工夫を加えています。

これからも、時代のニーズに合わせた新たな挑戦を続け、常に市場を意識した商品開発を進めています。



世界で初めて巨峰を原料にした
ワインを開発



ワインを通して地域発展を 創業当時から変わらぬ理念

試行錯誤の末、独自製法を確立

田主丸では昭和32年に巨峰の栽培が始まりました。栽培の苦労を生産者とともにした若竹屋酒造場の12代目林田社長が、巨峰の消費拡大と特産品開発を目指して、世界で初めて巨峰を原料にしたワインを開発。同時に地域雇用の拡大、地域の発展を目指して創業したのが株式会社巨峰ワインです。

現在はその技術を活かし、季節ごとのさまざまなフルーツワイン造りにチャレンジ。平成20年にはブルーベリーワインが全国酒類コンクール

のワイン部門で1位を獲得しました。

今では一大観光スポットに
 ところが平成24年の九州北部豪雨で施設が被災。ぶどう畑は一面土砂に埋もれてしまいました。再建も危ぶまれる程の被害を受けましたが、すぐに社員自らがスコップを手に取り土砂を除去する姿を見て、社長も大いに勇気づけられたそうです。その後、皆で一丸となり復旧に尽力。被災をきっかけに施設をリニューアルし、組織の結束も、より強まった」と林田社長。今では美しい景色、ワイン蔵、レストランも楽しめる、年間8万人が訪れる観光地になっています。「田主丸地域の発展という創業時の理念は今も変わりません。苦労して確立した製造技術を活かし、近隣で生産される果物を使ったフルーツワインに特化して研究開発を続けています。」



設立 昭和47(1972)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市田主丸町益生田246-1
 代表取締役社長 林田 安世
 従業員数 17名
 事業内容 ワイン製造・販売、レストラン
 受賞歴 平成20年全日本国際酒類振興会「全国酒類コンクール」(ワイン部門 第1位) 他

公式サイトはこちら!





出荷量、国内第3位
国内有数の焼酎メーカー



時代にあった商品開発で 市場を開拓

総市場の0.5%のシェアを占める
福德長酒類株式会社久留米工場の象徴である「赤レンガ造り」。その歴史は、大正9年の台湾製糖九州製糖所の建造開始まで遡ります。戦中の昭和18年には軍需工場として航空燃料の製造を担っていました。戦後は、昭和21年より飲用アルコール、焼酎、千石等の製造を開始。昭和28年に森永醸造として独立後は得意の発酵・蒸留技術を生かし、ビールを除くすべての酒類の製造、販売を手掛けてきました。平成3年に福德長酒類に社名変更し、平成13年

には現オエノンホールディングスのグループに加わり、乙類焼酎の製造に特化。博多の華ブランドを主軸に徐々に販路を拡大し、現在では焼酎乙類出荷量約3万ℓ、麦86%、そば8%、米・芋各3%で国内第3位(平成28年度統計)。国内焼酎乙類総市場の約6.5%のシェアを占めるなど国内有数の焼酎メーカーです。
新製品で若者層へも食い込む
福德長酒類が飛躍するターニングポイントとなったのが、平成10年前後から始まったとされる

る第三次本格焼酎ブームです。3年以上樽貯蔵を行った原酒がベースの「博多の華三年貯蔵」や、華やかで軽快で手頃な価格を実現した「博多の華麦焼酎パック」など、培ってきた製造技術を最大限に生かした本格焼酎が熱く支持されました。最近では若者を中心に広がるハイボールブームに対応した、樽貯蔵の風味を生かしたコストパフォーマンスの高い「琥珀色の博多の華」も好評。さらに、原材料にドイツ産ホップを使用し、ビール酵母で醸した個性的な麦焼酎を投入するなど、既成概念を排した商品開発も行っています。今後も伝統ある技術力を最大限に生かし、時代に合った焼酎の新たな楽しみ方を提案して市場開拓を進めていきます。

設立 昭和28(1953)年
資本金 5億1,807万円
本社所在地 千葉県松戸市上本郷字仲原250
久留米工場 久留米市荒木町荒木1200-1
代表者 代表取締役社長 清水 春夫
従業員数 211名
事業内容 酒類の製造・販売(主に焼酎)

公式サイトはこちら!



取り扱い品種日本最大級の
雑穀専門メーカー



血圧サポートGABA国産十六穀米

設立 昭和23(1948)年
資本金 1,000万円
本社所在地 久留米市宮ノ陣4-19-16
代表者 代表取締役 諸富 和馬
従業員数 40名
事業内容 雑穀加工品、冷凍米飯等の製造・卸・販売
受賞歴等 平成30年中小企業庁「はばたく中小企業・小規模事業者300社」

公式サイトはこちら!



高い商品企画力で 健康食品業界にも積極進出

開発から販売まで一貫して行える強み

戦後の食糧難の頃、貴重な栄養源だった雑穀や豆を扱う店として創業。現在では、雑穀の取り扱い品種数において、日本最大級の雑穀専門メーカーとなったのが株式会社種商です。原料の仕入れ、企画、パッケージデザイン、製造、販売まで一貫して行い、高い商品開発力が特長。「食品卸業から加工食品製造に進出したのは、平成8年です。食品に付加価値を付ける提案型に転

換しました」と語るのは、諸富社長。「現在、企画・開発部はほとんどが女性社員で、市場ニーズをつかんだ商品を生み出すのが当社の強み。近年では美容と健康に敏感な若い女性をターゲットにした商品開発も盛んです。また、EC市場での販促にも力を入れています」
先端技術で新商品を次々世の中へ
冷凍する際の細胞破壊を防ぎ、解凍時のドリップが出にくい特殊な冷凍技術「フロン凍結技術」

を用い、炊きたてのご飯の味を損なわない冷凍米飯も開発。大手企業の商品も数多く手がけています。また、ブレンド雑穀米としては初めての機能性表示食品である「血圧サポートGABA国産十六穀米」を新たに発売。ほかにも、雑穀青汁ゼリーや雑穀甘酒ゼリーなど、健康食品開発に力を入れており、雑穀に、カルシウムやコラーゲンなどの機能性素材をブレンドできる技術力が当社の強みです」と諸富社長。他社にはない企画・開発力、そして先端技術で、雑穀の更なる付加価値向上に努めています。
更に、米卸・雑穀加工食品メーカーとしては国内で初めて、全工場でハラル認証を取得。海外での試食販売や展示会出展も積極的に進めており、現在では、台湾、香港、シンガポール、タイ、ベトナム、アメリカやイギリスなどに販路を拡大しています。





「からだに優しい、おいしい健康」を
テーマに、トータルプロデュース



十六雑穀米、八宝だし、ナチュラルクック、十六雑穀生姜甘酒、赤米甘酒

設立 平成2(1990)年
 資本金 1,100万円
 本社所在地 久留米市三瀬町田川32-3
 代表者 代表取締役社長 内田 幸子
 従業員数 280名
 事業内容 食品製造・卸売、レストラン、旅館ほか
 受賞歴等 平成30年日本雑穀協会「日本雑穀アワード2018」(金賞) 他

公式サイトは
こちら!



食、そして心の豊かさ 「豊かさ」を追求し続ける

キーワードは、「健康」

元々会社員だった創業者の内田弘氏が体調を崩し入院した際に、健康について深く考えたことが会社設立のきっかけ。平成2年、世の中の食を変える仕事かしたい」と起業。その後、「雑穀」の出会いが同社の進むべき道となります。健康食品である雑穀をおいしく頂けるよう、適切な配合比を追求すること1年。ついに、冷めてもおいしい「雑穀米」を完成させました。商品化後は、健康食品ブームもあり、「ロシニ」等で徐々に

広がりを見せ、現在では、通販や生協大手コンビニまで幅広く展開。国内7カ所に製造工場を持ち、全国1500軒を超える契約農家や、自社農場から仕入れた安全・安心の原材料を使って、数百アイテムにのぼる商品を製造。お客様のニーズに対応した商品開発を続けています。

広がる「心の豊かさ」

「EAT X PLAY to LEARN(食へる×遊び・学ぶ)」というテーマで、アメニティ(快適さ)事業を展開しています。フランピン

グ(フランクなキャンピング施設や温泉旅館、ステキハウスなど、ターゲットを女性・主婦から男性や若年層まで拡大、豊かな生活の提案を行います。

また、お酒が好きな創業者の思いから、雑穀米焼酎「とんでんなか」を開発。協力を得られる酒蔵探し、独自の配合比の追求、特許を取得した仕込み方法の開発など、一切の妥協をせず作り上げた焼酎は芳醇でまろやか。商品名は杜氏の発した「とんでんなか(とんでない)酒はいい」からきています。食品から健康な生活を提示してきた同社は、さらに心の豊かさも追求し、お客様の健康づくりに貢献します。

60年以上守り続ける みんなの健康

乳酸菌の可能性に挑む

昭和29年、大手乳酸菌飲料の製造販売代理店として創業。昭和34年、プレットサンフーズ株式会社を設立し、自社で培養した生きた乳酸菌を使った飲料やヨーグルト製品を製造、販売しています。会社設立以来、原料である乳酸菌を60年以上大切に守り続けています。

現在は、乳酸菌飲料の「バックルゴールド」を主力商品として、九州全域を中心に全国にお届

けています。グループ全体で「65ml入り乳酸菌飲料」の出荷数量は全国でもトップクラスです。

新たな商品と変わらぬ品質

バックルゴールドの季節限定で、みかん、パイン、いちごなど果実のフレーバーを加えたミックスフルーツタイプを販売。消費者の嗜好に合わせた商品開発にも尽力しています。

さらには、健康志向の高まりを背景に乳酸菌をベースにケール、大葉若菜やクロレラを

配合した青汁を製造、販売するなど、付加価値がある新商品を提供しています。これら新商品も含め、同社商品を支えているのが、生きた乳酸菌の菌数管理技術です。「生きた菌の管理」や保持は非常に難しく、その分野において高い技術と実績を有することが、大きな強みとなっています」と大久保社長。

これまでと変わらない高いクオリティの商品を提供しながら、成長を止めない姿勢を貫いています。



乳酸菌飲料の製造販売
65ml容器出荷数量全国トップクラス
(※グループ会社全体)

設立 昭和34(1959)年
 資本金 1,400万円
 本社所在地 久留米市荒木町荒木1961-5
 代表者 代表取締役 大久保 章生
 従業員数 56名
 事業内容 乳酸菌飲料・清涼飲料・菓子・食品及び健康食品の製造並びに販売

公式サイトは
こちら!





和風アイスの先駆者
愛され続ける「あいすまんじゅう」



アイスで和菓子の おいしさを徹底追求

ロングセラー「あいすまんじゅう」
梅鉢の形をしたアイスクリームの中に、甘く香ばしいあんこがたっぷり入った「あいすまんじゅう」。昭和37年に発売が開始されて以来のロングセラー商品です。そんな「あいすまんじゅう」をはじめ、「白くまや」「きなこもち」などを製造販売している和風アイスの先駆者が丸永製菓株式会社。

もともとは、昭和8年に創業した永瀧製菓所という和菓子店でした。「昭和35年にアイスクリーム製造販売に着手したのですが、アイスクリーム製造業としては当時すでに後発でした。こう話すのは、永瀧取締役です。しかしながら、「あいすまんじゅう」の大ヒットを機に、九州から全国へと販路を拡大。その背景には、品質の高さが認められ、大手商社や全国展開のコンビニエンスストアとの取引が始まったことがありました。

大手が取り組まない商品開発を

「あいすまんじゅう」ヒットの理由のひとつ

が、和菓子として楽しめるおいしさです。前身が和菓子店であり、「凍らせてもあんこが柔らかいこと、それを包むアイスクリームも柔らかいところに秘訣があります。当社の商品開発は「あんこやお餅をアイスとして、どうおいしく食べられるか」が先。アイスクリームメーカーとは逆の発想です」と永瀧取締役。製造には手間がかかりますが、「だからこそ、大手が取り組みにくい。そんな商品開発が当社の得意とするところですよ」。

原料や製法の見直しは適宜行っています。時代に合わせて配合を調整したり工程を変えたりします。「お客様が求めるおいしさを変えない」ための変化です。



設立 昭和8(1933)年
資本金 1,488万円
本社所在地 久留米市東櫛原町1821
代表者 代表取締役社長 永瀧 俊毅
従業員数 145名
事業内容 アイスクリーム製造・販売
受賞歴等 平成29年経済産業省「地域未来牽引企業」
[MONDE SELECTION 2017](金賞) 他

公式サイトはこちら!



「ごま焼酎」のパイオニア

設立 昭和53(1978)年
資本金 7,000万円
本社所在地 久留米市田主丸町益生田214-2
代表者 代表取締役 川原 武浩 取締役社長 吉村 拓二
従業員数 43名
事業内容 本格焼酎・リキュールの製造・販売
受賞歴等 平成29年「福岡国税局酒類鑑評会」(金賞)
平成29年「福岡県酒類鑑評会」(福岡県知事賞)
平成30年「福岡国税局酒類鑑評会」(金賞) 他

公式サイトはこちら!



貯蔵・ブレンドに 高評価「ごま焼酎紅乙女」

長期熟成・三次仕込みで製造

株式会社紅乙女酒造のルーツは、元禄12年に創業された若竹屋酒造場に遡ります。それからおよそ280年後、12代目林田社長の妻 春野氏が、これまでになく新しい焼酎を開発したことが会社設立のきっかけとなりました。これまでにない新しい焼酎とは、「香水のような上品な香りを持ち、洋酒のように本当においしいお酒。ごまを加えることで、焼酎独特の臭みを消した「ごま焼酎」

です。紅乙女酒造は、もろみにごまを加える三次仕込みという独自の製法を生み出しました。出来あがりのお酒はすぐに製品化せずに、貯蔵・熟成後、ブレンドを行います。手間暇がかかりますが、この工程を惜しまず独自の製法を守り今日に至ります。発売当時、新たな販路を目指して、創業者自ら東京にごま焼酎を持参して売り歩きました。その苦労が実を結び、現在は関東から東北まで販路が拡大。あつと言つ間に全国の焼酎ファンに知られるようになりました。なかでも「R九州の豪華クルーズトレイン」ななつ星「九州」のダイニングカーで提供された「ごま焼酎紅乙女」ゴールド38度は大きな話題を呼びました。

新開発の黒い甘酒に注目集まる

近年の甘酒ブームもあり甘酒の出荷も好調。黒ごまを使ったオリジナル商品「黒い甘酒」が大ヒットとなりました。展示会等に「黒い甘酒」を出展すると見た目のインパクトで注目を集め、しかも試飲してみると「きわめて美味」ということで、好評を得ています。紅乙女酒造では、新たな試みにチャレンジし、自社開発製品の販路開拓に取り組んでいます。

紅乙女ゴールド





伝統を守り、革新し続ける 世界に羽ばたく老舗蔵元

設立 元禄12年(1699)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市田主丸町田主丸706
 代表者 14代目 林田 浩暢
 従業員数 20人
 事業内容 清酒、甘酒、リキュールの製造・販売
 受賞歴等 平成29年「福岡国税局酒類鑑評会」(吟醸の部 金賞)
 平成30年「福岡国税局酒類鑑評会」(純米の部 金賞)
 平成30年「福岡県酒類鑑評会」(大吟醸の部金賞)

公式サイトは
こちら!



「子孫より預かりしもの」 300年の酒造りを次世代へ

酒造りに恵まれた土地・田主丸
 合資会社若竹屋酒造場の創業は、元禄12年。300年を超える歴史を持つ蔵元です。酒造りには豊かな水を育む山、稲作が盛んな肥沃な土地、そして水運をはじめとした輸送手段があることが必要。「創業地である田主丸には、耳納連山、筑後平野、そして筑後川という恵まれた環境があります」と、14代目林田社長。使用する酒米は、そのほとんどが田主丸の生産者による契約栽培です。

日本酒の復活も、新酵母の開発も
 家訓は「若竹屋は先祖より受け継ぎし商いにあらず。子孫より預かりしものなり」。酒造りを次世代へつなげる取り組みにも余念がありません。
 発酵工学分野で博士号を持っていた前社長の研究成果の一つが、『博多練酒。現在の日本酒の原点ともいわれるながら製造技法が失われていたこの日本酒を復活させ販売を始めました。また、元禄期の製造法を再現した「醗郁元禄之酒」や、

日本で最初に分離培養された酒酵母を使用した『Debut』なども開発。福岡県工業技術センター生物食品研究所との共同開発で誕生した吟醸酒用新酵母は、現在各地の蔵元で使われています。
 「日本酒は、技が味を決めます。造り方は300年前から変わらない、現代の科学的知見から見ても精密で合理的な製法です。しかし、300年の伝統を守るには、自己革新も不可欠です」と林田社長。
 近年はヨーロッパ市場にも進出。現地の三星レストランでも取り扱われるなど、若竹屋酒造場の日本酒は、世界へと羽ばたくていきます。



転機となったペットライフ事業
 株式会社森光商店の歴史は、明治10年から続く老舗米穀問屋「森光惣七商店」にまで遡ります。昭和初期まで、造り酒屋・炭鉱の食堂が主な販売先でしたが、競争で米穀の取り扱いが休止。これを機に取り扱い商品を増やしていき、会社のターニングポイントとなったのが、ペットフード事業に参入したこと。熊本市に開業したホームセンターの依頼から始まったのですが、ペット関連ビジネスの発見が

徹底した安全・品質・衛生管理
 産地や品質に徹底的にこだわる森光商店。米

の鮮度にごこだわり、完全受注精米システムを導入。受注分のみを玄米から白米に精米して提供しています。また、すべての商品に精米日、精米時間、精米担当者を表示するトレーサビリティシステムを導入することで、お客様からの信頼・信用を得ています。
 ペットライフ事業では広域物流センターを整備し、最新の在庫管理システムを導入、すべての商品に対して100%のスクリーン検品を行うことで、正確・安心・安全な納品体制を実現しています。
 商品への厳しいこだわりの一方で、人に対して温かいまなざしを向ける森光商店。社訓は「人を泣かすな 朝日よりも夕日を拝め」。信用を大切にし、相手が困っている時は最後まで寄り添うのが同社のモットーです。

「人を泣かすな 朝日よりも夕日を拝め」



明治10年創業の老舗問屋 米穀・食料・ペットライフの3事業で発展



設立 昭和29(1954)年
 資本金 3,000万円
 本社所在地 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜9-7(商工団地内)
 久留米事業所 久留米市城南町5番地の30
 代表者 取締役社長 森光 栄一
 従業員数 280名
 事業内容 米麦等の加工・販売、穀類・飼料・肥料等の製造・加工・販売
 受賞歴等 平成29年経済産業省「地域未来牽引企業」

公式サイトは
こちら!





暮らしや環境の安全を守る
微生物のエキスパート



設立 昭和62(1987)年
 資本金 5,000万円
 本社所在地 久留米市百年公園1-1 福岡バイオインキュベーションセンター104
 代表者 代表取締役 波多野 稔文
 従業員数 78名
 事業内容 飼料用微生物製剤、不快害虫駆除剤の開発、製造、販売
 受賞歴等 平成17年「愛・地球博」(愛・地球賞)

公式サイトはこちら!



本物づくへりいで 健やかづくへりに貢献

自然界にある微生物の力を活かした商品
 昭和62年創業の株式会社九州メディカル。調剤薬局の展開や微生物技術をベースとした製品の開発、販売を行う会社です。地域に根ざすのが薬局事業に対して、バイオ事業は世界市場への展開を見据えています。
 バイオ事業は、自然界にある微生物を抽出し、性状解析、培養生産。市場ニーズに合う微生物を、自社で一貫して選抜・製品化しています。微生物のラ

イブラリストックは、何と四千株以上。同社の強みの一つです。
 現在、飼料用製品(生育促進や悪臭低減に効果)や、保健衛生用製品(不快害虫の駆除に効果)を製造。近年、食の安全・安心は、世界的な関心事。生体への影響を考慮し、家畜などに投与する成長促進抗生物質を禁止する動きも出ています。同社の製品は元々自然界に存在する微生物の力を活かしたものであり、安全性の高さが強み。国内外の養殖工、養豚、養鶏等の現場で使われています。

環境に優しい害虫駆除剤も
 またアジアでは、蚊を媒介とする伝染病・感染症対策も大きな問題。多くの国では化学殺虫剤を使って蚊の幼虫を駆除していますが、近年では薬剤耐性をもつ幼虫の出現も報告されています。そこで同社では、バイオ殺虫剤を開発・提案。環境にも優しく、人体を含め他生物への影響はありません。この製品は沖縄・西表島のマングローブからボウフラだけに効く微生物を発見。駆除剤として開発したものです。主要マーケットは東南アジア。現地の需要に対応するためインドネシアに製造工場を設立しました。
 微生物の研究を通じて、本物を追求し、日本と世界の健やかな暮らしづくりに貢献しています。



九州初、消火器から回収した成分で
リサイクル肥料を製品化



消火器リサイクルの技術で 環境保全と新たな価値創出に取り組み

消火薬剤のリサイクル技術の開発

創業当時は、石炭の卸業だった兼定興産株式会社。その後、肥料と工業薬品を製造するようになります。消火薬剤の研究開発を始めたのは、平成20年のこと。リン鉱石の産地である中国・四川地方が大地震に見舞われ、リン酸肥料の価格が高騰した頃です。「農家にとっては深刻な問題です。そこで、廃棄予定の消火器の薬剤からリンを回収し、肥料にするアイデアを考えました」と野下社長。

消火薬剤から有効成分を取り出すには、薬剤に付与されているシリコンコーティングを除去する必要があります。除去方法を確立するまでに3年。併せて、原料収集・製造・販売のリサイクルシステムを確立し、ついに、消火薬剤リサイクル肥料が完成します。九州では初の取り組みでした。

全国初の試み、消火薬剤を再利用した難燃剤
 新たな取り組みとして、消火薬剤の主成分

であるリン酸アンモニウムが不燃性であることに着目し、難燃剤への開発に着手しています。難燃剤とは繊維、紙、木材などの可燃性の素材に添加し燃えにくくする薬剤のこと。この製品開発にも、同社が確立したシリコン除去方法が有効で、低コストで環境に配慮したリサイクルが可能となりました。全国でも初めてとなる試みです。今年中には販売予定で、製材・製紙業からも期待が寄せられています。
 「従来、使用期限が切れた消火器は、処理費用をかけて廃棄するしかありませんでしたが、我々は、それを有価で買い取り、有効利用につなげています」と野下社長。同社の取り組みは「環境保全」につながるだけでなく、新たな付加価値と用途を生み出しています。



設立 昭和32(1957)年
 資本金 1,600万円
 本社所在地 久留米市野中町640-1
 代表者 代表取締役 野下 兼司郎
 従業員数 5名
 事業内容 消火薬剤・リサイクル肥料の製造販売 工業薬品卸
 受賞歴等 平成25年度リン資源リサイクル推進協議会「リン資源リサイクル推進功績者」

公式サイトはこちら!





「プラセンタ」一筋に半世紀 ヒト胎盤製剤世界トップシェア



期待が高まる「プラセンタ」 大いなる恵みを最先端医療へ

肝臓機能改善に効果

株式会社日本生物製剤は、昭和45年、久留米大学医学部の神田憲太郎教授によって開発されたプラセンタ医薬品を製品化するために設立された会社です。プラセンタとは、哺乳類のお腹の中で赤ちゃんを守り、育てる役割を持つ胎盤のこと。会社設立以来、プラセンタエキス製造に特化した医薬品、健康食品、化粧品を開発し、製造・販売してきました。

同社は独自の製法で、胎盤が持つ有用な機能を

久留米から世界へ向けて

胎盤の収集から注射薬の製造、そして出荷まで、徹底したトレーサビリティシステムを導入。

「材料が天然由来のため副作用が少なく、安全性が高いことも特徴です」と語るのは大國工場長です。

「プラセンタは肝臓病や肝臓機能改善に効果を発揮し、多くの医療現場で使用されています。」

「材料が天然由来のため副作用が少なく、安全性が高いことも特徴です」と語るのは大國工場長です。

「藤光工場の新設により、生産能力を増強したことで世界各国に向けて供給する体制が整いました。医薬部外品の製造にも力を入れ、これからの次世代の健康に貢献していきます。」

「材料が天然由来のため副作用が少なく、安全性が高いことも特徴です」と語るのは大國工場長です。

プラセンタサプリメント/LNC プラセンタル スキンケア ホワイトシリーズ



設立 昭和45(1970)年
資本金 8,000万円
本社所在地 東京都渋谷区富ヶ谷1丁目44番4号
久留米工場 久留米市野中町1493番地
代表者 代表取締役 郭 太乙
従業員数 171名
事業内容 医薬品、健康補助食品、化粧品等の製造・販売

公式サイトはこちら!



高い技術と企画・提案力で 超精密金型を製作

設立 平成元(1989)年
資本金 1,000万円
本社所在地 久留米市宮ノ陣町若松1-6
代表者 代表取締役 江口 克弘
従業員数 55名
事業内容 金型設計・製作・試作(精密トランスファ成形金型、超精密インジェクション成形金型、プレス金型)

公式サイトはこちら!



常に新しいチャレンジを 続けることが力に

最先端技術で手がける超精密金型

金型業界の中でも、特に最先端の技術が必要とする「超精密金型」を手がける株式会社創世エンジニアリング。複雑な金型をミクロン単位で正確に成形します。プラスチック樹脂(金属)プレス加工など、あらゆる素材で精緻な加工ができるだけでなく、企画、開発、設計、製作、試打ち、実装まで、お客様の要望に随々まで応える金型のトータルプロデュースが可能です。

大手企業とも対等に提案力を発揮

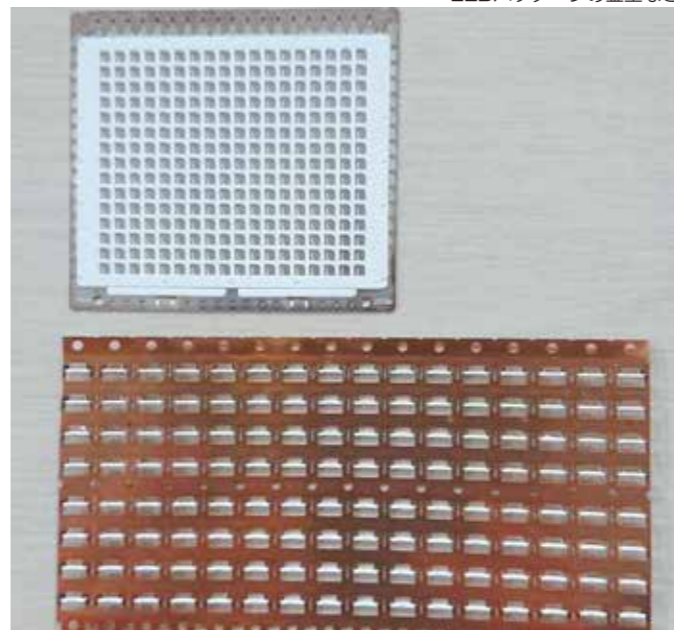
江口社長は、金型メーカー勤務を経て独立し、久留米で会社を設立。高い技術力を武器に、社の強みです。

主力製品は、自動車、電機・電子部品、半導体の金型および部品。現在では、自動車向け駆動用モーターのプレス金型の製作も手がけ、事業を拡大中です。創業30年、着実に実績を伸ばしています。

手自動車部品メーカーからの絶大な信頼を得て、徐々に企画段階から製品の開発に携わるようになりました。「大手企業の企画・設計部門と対等な立場で十分に意思疎通を図ること」が、当社から積極的に提案する土壌をつくってまいりました。メーカーにとって必要不可欠な存在になることで、下請け仕事からの脱却を実現。常に新しいチャレンジを続けることにより、技術力や企画力、お客様とのすり合わせ力を向上させることができました。社員一人一人が高い問題意識を持ち、全員参加型の企業経営を目指しています」と江口社長。

「今後も、お客様の要望に正確に答えたいだけでなく、むしろお客様の先を行き、要望を超えるような発想、提案をすることでさらなる成長を目指したいと考えています。」

LEDパッケージの金型など





RNAに働きかける、 核酸医薬分野の道を拓く



設立 平成22(2010)年
 資本金 38億7,700万円
 本社所在地 久留米市合川町1488-4
 福岡バイオファクトリー4F
 代表者 代表取締役社長 林 宏剛
 従業員数 33名
 事業内容 核酸原薬の製造、核酸医薬開発支援
 受賞歴 平成29年経済産業省「地域未来牽引企業」

公式サイトは
こちら！



医療のまち・久留米を拠点に 次世代医療の確立を目指す

新技術で「ボナック核酸」を開発
 設計図が異常になったDNAから、異常な情報がコピーされたRNAは、体に悪影響をもたらすタンパク質を生成し、遺伝性疾患の他、様々な病気の原因になると言われています。このRNAに直接働きかけ、タンパク質の生成そのものを抑えることで病気の治療を目指すのが、「核酸医療」。この分野に新しい道を拓いたのが株式会社ボナックです。これまでRNA干渉薬は、「二本鎖短鎖RNA」を用

核酸医薬品の開発に向けまい進
 ボナックは、元製薬会社の研究所長で、退職したものが中心でしたが当社では、新しい発想と技術力で「二本鎖長鎖RNA」を実現した『ボナック核酸』を開発。日米欧で、特許も取得しています」と話すのは、佐々木チームリーダーです。壊れやすかった「二本鎖短鎖RNA」に対し「二本鎖長鎖RNA」は高い安定性が特長。また、副作用の低減も期待されています。

後も研究の継続を志していた大木会長と、百年続く商社で、核酸を扱った医薬分野への進出を考えていた林社長が創業したベンチャー企業です。「入居している福岡バイオファクトリーが、当社の様々な研究条件を満たし、施設として最適だったので久留米で創業を決めました。医療のまちである久留米市に拠点を置けたことは、研究開発の推進力になっています」と佐々木チームリーダー。
 現在は大手企業とライセンス契約や共同研究契約を締結。核酸医療分野における事業化を目指すボナックの次世代医療に、大きな期待が寄せられています。

見えないものを 価値あるものへ

国内最大の米品種データベース

ビジョンバイオ株式会社は、平成9年に環境に関する調査や予測を行う環境アセスメントをメインに行う企業として設立されました。その後、食の安全・安心に消費者の関心が高まる中、九州大学と米の品種判別に係る共同研究を開始。食品会社等からの依頼が急増したことを受けて、事業を環境から食品へとシフトしました。現在は、国内最大の約600種を超える米の

顧客自身が使える検査キット
 さらに、メーカー向けに検査キットの開

品種情報のデータベースを保有。DNA解析による高精度、スピーディーかつ低価格の米の品種判別を実現し、好評を得ています。その他、小麦・大豆という主要穀物全ての品種判別、食物アレルギー検査、食品の検査・分析事業等を展開。また、検査に関する技術や試薬の改良・開発も行っていきます。

品種情報のデータベースを保有。DNA解析による高精度、スピーディーかつ低価格の米の品種判別を実現し、好評を得ています。その他、小麦・大豆という主要穀物全ての品種判別、食物アレルギー検査、食品の検査・分析事業等を展開。また、検査に関する技術や試薬の改良・開発も行っていきます。

開発、販売も。食品メーカー等が本キットを使うことで異物混入の簡易検査を行うことが可能です。検査を外注する方法に比べて低コスト・短時間で出来るのがメリットです。また、検査担当者向けに技術セミナーを開催したり、検定試験等の技術支援も行っています。「そんな多角的なソリューションを提供できるのも当社の強みです」と営業部の立岩リーダー。
 取引先は、国や地方自治体、農業団体や食品メーカーと、多岐に渡ります。「当社のビジョンは、見分ける技術を通じて、お客様の付加価値と生産性向上に寄与し、より良い未来に貢献すること。お客様へ付加価値を提供することが、ひいては社会全体への新しい価値の提供につながると思っています。」

検査キット「お米鑑定団」



「食」の安全・安心を守る 新しい価値を創出する検査分析

設立 平成9(1997)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市百年公園1-1 久留米リサーチセンタービル1F
 代表取締役社長 塚脇 博夫
 従業員数 12名
 事業内容 検査試薬開発・販売、受託検査サービス、研修・教育 等

公式サイトは
こちら！





独自の塗料開発と施工で
環境と人の暮らしに貢献



設立 昭和42(1967)年
 資本金 2億9,300万円
 本社所在地 久留米市藤山町696-5
 代表者 代表取締役社長 村井 正隆
 従業員数 30名
 事業内容 特殊塗料製品の製造・施工・販売

公式サイトはこちら!



「二石五鳥」の環境対応 塗料開発

遮熱・断熱効果のある
特殊塗料を開発

ムライケミカルパック株式会社は、独自開発した特殊塗料の製造と販売だけでなく、施工までを一貫受注する、塗料メーカーとしては珍しい存在です。設立直後はタイヤ用特殊塗料を主に手がけていましたが、その後工場などの屋根に使われるスレート材を復元、強化する塗料を開発。1990年代後半には、アスベスト被害が社会問題化する中で、他に先

駆けてアスベスト粉じん飛散防止処理塗料を開発。同時に、「アスベスト粉じん飛散防止処理工事」に関して、九州初となる建設技術審査証明を取得しました。その後、「当社が施工した企業などから『建物内が涼しくなった暖かくなった』」とお声を頂いたことから、断熱効果のある塗料の開発に本格的に着手。現在は高い遮熱・断熱効果を持つ合成樹脂系特殊塗料の製造と施工が中心となっています」と村井社長は語ります。

製品開発の理念は「環境対応」

同社の特殊塗料は、①老朽化したスレートの強度を復元②遮熱と断熱効果あり③省エネ効果、④表面が汚れにくく、見た目の美しさを長く維持、⑤アスベストの飛散防止⑥低コストの特長があり、いわば「二石五鳥」の製品です。それらの特性を活かし、新築よりも、既存建物のメンテナンスに重点を置いて営業を展開しています。

製品開発の基本理念は、「環境対応」であること。「長く手掛けてきた特殊塗料の開発・製造の歴史を強みに、これからも塗料メーカーとして環境にやさしい社会づくりに貢献していきたいと思っています」。



創業当初から変わらない
人と自然に優しい無添加石けん



無添加・天然素材。 こだわりの技術を継承

健康や環境配慮の中で支持拡大

まるは油脂化学株式会社は、昭和7年、現社長の曾祖父である林重右衛門氏が創業した林商店から始まりました。学者肌で研究好きだった重右衛門氏は、肌に優しく、使用感のよい石けんづくりに着手。昭和20年にはマルハ化粧品研究所として、固形石けん等を製造、販売しました。戦後、同業者が合成洗剤に転換するなか、一貫して動植物性油脂と天然成分による無添加石けんの

製造を継続。昭和50年、2代目である林九州男氏がまるは油脂化学を設立し、現在に至ります。

「消費者の健康志向や環境配慮型の商品が求められる中で、合理化や大量生産とは対極にある伝統的製法を守り、高品質の商品を提供し続けてきたことが、当社の優位性となっています」と林社長は話します。

石けんづくりの相談も受け入れ

原料だけでなく、釜だし法や酸化(けんか)法

などの昔ながらの技術も継承。そうして作られる無添加石けんは、アレルギー肌にも対応できるだけでなく、河川や海に流れても微生物によつて分解され、環境にやさしい製品です。

最近では、こだわりの石けんづくりについでに相談が増加。「当社では、これまで培ってきた知識や技術を活かして、助言や提案も行っています。他社ではできないことも当社なら解決できるという、セカンドオピニオン的な存在になれば」と林社長。

また、3代目の林眞一氏が石けん塗装(ソープフィニッシュ)という木材の保護剤を開発。「赤ちゃんにも安心な塗料で、色が変わらず、木の香りも出るという特長があります」。

創業時より続く、人と環境に優しい技術は、様々な分野に広がっています。



設立 昭和50(1975)年
 資本金 1,050万円
 本社所在地 久留米市高野2-8-53
 代表者 代表取締役 林 亀馬
 従業員数 14名
 事業内容 無添加石けん類(浴用・台所用・洗濯用・業務用など)の製造・販売

公式サイトはこちら!





産業用部品から芸術品まで
熟練の技が支える加工技術

設立 昭和51(1976)年
資本金 300万円
本社所在地 久留米市田主丸町豊城482-1
代表取締役 江口 聖二
従業員数 4名
事業内容 へら鉸り、特殊溶接、NC旋盤



細かなこだわりを忠実に 完全手作業の「へら鉸り」

多品種少量生産が可能

「へら鉸り」とは、金属の円盤を鉸り機に取り付け、回転させながら「へら」と呼ばれる棒を押し当てることで少しずつ変形させて製品をつくる加工技術のこと。金属の塑性（力を加えることで形を変える物質の性質）を利用した製法で、全国的にも珍しい特殊技術です。

創業者は、へら鉸りを東京で修業し習得。昭和50年に田主丸で創業しました。雄型と雌型を必要とするプレス加工に対し、へら鉸りには雄型のみで加工ができるため、製造コストが抑えられることが特長。最初から最後まで完全手作業なので、多品種少量の生産に向いています。

特殊な一点ものも、熟練の技で

製作するのは、各種産業用部品のほか、鉄板やタクトなどの飲食店関係の部品など。中には芸術関係の依頼もあり、依頼主も企業から個人まで多種多様です。各所に問い合わせで不可能と言われ「こういう形状の加工ができませんか？」というお問い合わせから始まる依頼もあ

ります」と江口社長。基本の形状はあっても、一つひとつ微妙に異なるように、という特殊な一点ものの注文も引き受けています。手作業に頼る部分が大いなので、お客様のこだわりや繊細なご要望を忠実に再現できることが強みです。図面がなくとも製品化できるのは、熟練の職人が存在する当社ならではの強みです。

へら鉸りの技術により作成された製品



伊藤産業株式会社は昭和21年、現社長の祖父が出身地の三重県桑名市と久留米市で創業したのが始まり。当時は桑名の家庭用物品を久留米で販売し、桑名では久留米餅等を販売していました。プロパンガスが普及すると、鋳物コンロの販売を手掛け、その後、2代目である現社長の父が、厨房機器の販売という新分野に進出。それが現在の業務につながっています。

「温故創新」 飲食店のトータルサポートへ

厨房機器取り扱いに進出し成功

製造の他、取り扱っている業務用厨房機器や部品は、新品から中古品まで多岐に渡り、お客様の予算に応じた対応が可能です。

「新品も中古品もさまざまなメーカーのものを取り扱っており、また、厨房設計から設置・メンテナンスまで幅広いサービスが当社の強みです」と、3代目の伊藤社長。これまで居酒屋、ラーメン店、焼き肉店など多岐に渡るジャンルの飲食店に納入実績があります。

鋳物コンロ製造は今も九州唯一

鋳物コンロについては現在も九州唯一のメーカーです。長年培った海外鋳物メーカーとのパイも強み。相談を頂ければ、様々な商品の製造や仲介ができます」と伊藤社長。国内の鋳物メーカーは減少傾向にあり、廃業したメーカーの製品に関して相談を受けることも。設計書がなく現物のみの場合も多いため、三次元測定機と三次元CADを駆使して、設計や製造に取り組んでいます。

「今後は、これまで培ったネットワークと業務経験を活かし、飲食店開業の物件探しや資金調達まで、トータルサポートを手がけていきたいと考えています。2代目社長の先見の明から始まった事業は、ますます広がりを見せています。」



九州で唯一の鋳物コンロメーカー



鋳物コンロ 2Sコンロ KP-2S

設立 昭和42(1967)年
資本金 3,000万円
本社所在地 久留米市梅満町74-1
代表取締役社長 伊藤 晴輝
従業員数 25名
事業内容 業務用厨房機器、食器等の販売、鋳物コンロ、ガス器具等製造

公式サイトはこちら!





建設機械シリンダー加工国内トップシェア 機械部品再生のプロ集団



新品を超える寿命を生む 硬質クロムめっき技術

機械部品を再生する独自技術
株式会社東洋硬化は、硬質クロムめっきを使用した独自の技術で、ステンレス、アルミニウム、銅などの各種金属で作られた機械部品を製作するほか、摩耗した機械部品の修理・再生を手がけています。
硬質クロムめっきは、ダイヤモンドに次ぐ硬さの皮膜を付けることができるため、再生品に使用すると、摩耗した機械部品に新品を超える寿命を与えることができます。金型な

ど、簡単に交換できない希少価値の高い部品に硬質クロムめっきを施すと、再生だけでなく、離型性や耐摩耗性を向上させることも可能。現在、取引先は1000社を超えます。注文の6割が再生依頼に関するもので、うち7割は、建設機械のシリンダー再生加工です。この分野では、国内トップシェア。そのほか、バイク用インナーチューブ再生も国内トップシェアを誇っています。

一品一様の再生加工を実現
創業は昭和35年。当初はトラック用部品、その後、炭鉱用機械部品や自動車、建設機械部品などの製造、販売を主としていましたが、20年程前、サイクル時代の到来を見越して、めっき表面処理による機械部品の再生加工、メンテナンスを主体とする業務に転換しました。硬質クロムを自社で製造し、機械部品の製造や修理まで一貫して行う企業は、全国でも珍しい存在です。
ステンレスに硬質クロムめっき加工を施すオリジナル技術も強みです。再生する品が一品一様であるため、再生品ごとに違う工程で作業をする必要があり、その積み重ねで蓄積されたノウハウも力です。全国のものづくりの現場を、「部品再生のプロ」として支えています。

設立 昭和35(1960)年
資本金 1,000万円
本社所在地 久留米市津福本町1978-1
代表者 代表取締役 小野 賢太郎
従業員数 80名
事業内容 めっき加工品の製造・販売、各種金属部品の修復加工・メンテナンス

公式サイトはこちら!



Before



After



工場内搬送に使われる 「特殊仕様ラック」シェアNo.1



「噛みあいの良い関係づくり」 多様な現場で活躍するギヤを生産

ワンストップで一品一様生産

株式会社古賀歯車製作所で製作される歯車(ギヤ)は、水門、建設用エレベーター、モノレールなど様々な場所で使用されているほか、種子島宇宙センターのロケット組立棟の一部にも採用されています。

同社が得意とするのが「ラック」。歯車と同じ歯をまつすくば板に刻んだもので、歯車と組み合わせて回転運動と直進運動の変換に用いられます。

す。ラックは、工場内の搬送機に使用。ロボットや半導体業向け小型超精密ラックから、製鉄や造船業向けの超大型ラックまで、幅広い分野で利用されています。現在、特殊仕様のラック生産においては国内トップシェア。また、お客様の要望に沿った一品一様のギヤ生産ができることも強みです。
中でもこれまでの経験、知識、技術の集大成となる自社オリジナル浸炭歯研ヘリカル(斜めの歯)ラックは騒音・振動などを減らし、剛性強度を高めた商品です。同じ直動機構の一つ「ボ-

ルねじ」と比較しても同等以上の位置決め精度を実現でき、かつ高速稼働が可能である事が利点です。

自己成長の場を積極的に創出

ギヤのプロフェッショナルとして、噛みあいの良い関係づくりが経営理念。「社員一人ひとりが高い志を持ち、仕事を通じて切磋琢磨しながら、技術や人格を向上させる。そのことで、人はもちろん業務ともうまく噛みあった環境づくりに取り組んでいます」と古賀社長。技術品質向上や、他社の成功事例から学ぶ勉強会など、社内教育にも力を入れ、社員の自己成長の場を積極的に創出。次世代を担う若手人材を育成し、独自技術をさらに磨き、世界一の製品づくりを目指しています。

浸炭歯研ヘリカルラックSR・ザグリ穴



設立 昭和60(1985)年
資本金 1,000万円
本社所在地 久留米市荒木町荒木1964-5
代表者 代表取締役社長 古賀 俊宏
従業員数 58名
事業内容 各種歯車の製造・販売
受賞歴等 平成23年経済産業省「IT経営実践認定企業」/平成23年全国中小企業振興機関協会「情報化優良企業表彰」(中小企業庁長官賞)

公式サイトはこちら!





製造業を支える金属卸 材料品揃え日本一

設立 昭和61(1986)年
 資本金 3,000万円
 本社所在地 久留米市津福本町2348-29
 代表取締役社長 松本 正二郎
 従業員数 80名
 事業内容 金属材料加工、卸、販売
 受賞歴等 平成26年経済産業省「IT経営実践認定企業」

公式サイトはこちら!



必要な時・必要な数量を 「フル・トキイル・ダケ」

5万点以上の金属材料を扱う
 通常、金属卸業者は、取り扱う材料の種類が決まっており、製造業者が注文する場合、材質によって別々の業者に発注しなければなりません。
 そんな顧客の悩みを解消したのが株式会社松本商店。「様々な金属材料を取り扱っており、お客様は当社に注文するだけでほとんどの材料を揃えることが可能です」と語るのは松本社長。
 キャッチフレーズは「フル・トキイル・ダケ」。

部品加工・特殊加工で製造業をサポート
 同社では、金属材料の切断加工だけでなく、顧客の要望に応じて様々な部品加工も行います。スタンレス6F(六面加工商品に着手したのは20年程前のこと。難削材のスタンレスは、加工

に高度な技術を要するため、当時、九州にスタンレスの特殊加工を行う会社はほとんどありませんでした。そこで同社は九州でいち早くスタンレスの特殊加工を手がけました。今では全国でトップクラスの生産量を誇ります。それまで同商品を遠方から取り寄せるしかなかった九州の事業者は、同社に注文することで、納期・コストを大幅に改善できたのです。
 金属材料に関する顧客のあらゆる「困りごと」を解消するのが同社のモットー。品揃え、管理、加工、出荷の全てに、金属材料一筋の経験に裏打ちされたノウハウが詰まっています。必要な材料が必要なタイミングで供給。松本商店は、製造と生産管理の両面で製造業をサポートしています。



自動車業界からも 厚い信頼

**技術に裏つけられた
付加価値が強い**

戦後間もない昭和23年、佐賀県三養基町で自動車リサイクルのめっき工場として創業した平井鍍金(めっき)工業株式会社。ものづくり企業が集積する久留米市に移転後は、農機具部品や電器部品などを幅広く手掛けるようになりました。
 めっきは、自動車や家電製品などの身近なものに必ず使われています。同社では、主に電気め

っき技術で、ものづくり企業を支えています。電気めっきは、電気エネルギーによって溶液中の金属イオンを還元し、素材に被膜を形成させる方法。自動車部品や産業用機械、農機具、建築機材など幅広い分野で必要とされます。鉄や銅、SUS材に、耐食性や装飾性などの付加価値をつけることができる、久留米エリア唯一の電気めっき技術を持っていると自負しています」と平井社長。九州のめっき会社として、いち早く大手自動車関連メーカーと取引を開始。また、国内では2社しか

き技術でものづくり企業を支えています。電気めっきは、電気エネルギーによって溶液中の金属イオンを還元し、素材に被膜を形成させる方法。自動車部品や産業用機械、農機具、建築機材など幅広い分野で必要とされます。鉄や銅、SUS材に、耐食性や装飾性などの付加価値をつけることができる、久留米エリア唯一の電気めっき技術を持っていると自負しています」と平井社長。九州のめっき会社として、いち早く大手自動車関連メーカーと取引を開始。また、国内では2社しか

新たなめっき工程にチャレンジ
 最近の自動車業界では、燃費向上を目的として、車体使用する鋼材が年々薄くて硬い「高張力鋼」になってきています。高張力鋼は、めっき加工が非常に難しく、従来の工法では本体が破損しやすいという欠点があります。今後この分野にチャレンジし、新たな工法を確立したいと考えています」と平井社長は語ります。



めっき技術で、 日々の暮らしを支える



設立 昭和55(1980)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市津福本町字南津留2348-17
 代表取締役 平井 正秋
 従業員数 30名
 事業内容 電気めっき、亜鉛めっき、ニッケルめっき、スズめっき、装飾クロムめっき、電解研磨

公式サイトはこちら!





「快歩主義」
健康・快適シューズ市場No. 1*

※2012年度シューズポスト紙調べ

設立 大正7(1918)年
 資本金 8億4,000万円
 本社所在地 久留米市洗町1
 代表者 代表取締役社長 佐藤 栄一郎
 従業員数 800名
 事業内容 ゴム履物・革靴の製造、販売
 受賞歴等 平成28年福岡県産業デザイン協議会「福岡デザインアワード」(優秀賞) / 平成30年経済産業省「地域未来牽引企業」 他

公式サイトはこちら!



「靴」を通じて 日本の健康づくりへ貢献

復活のシンボル「快歩主義」

同社の始まりは明治25年創業の仕立物業「志まや」です。大正7年に日本足袋株式会社が設立され、地下足袋にゴム底を貼り付けた「アサヒ特許地下足袋」を発売。作業現場で働く人々に人気を博しました。昭和12年、日本ゴム株式会社と社名変更し業界トップになりましたが、業績が悪化。立て直しを図る中で生まれたのが、シニア向けシューズ「快歩主義」でした。これは、高齢社会に向けたシニアのニーズを徹底的に考えて生まれた靴。開発当時

世界初の機能を持つ「アサヒメディカルウォーク」

続いて生まれたのが、「アサヒメディカルウォーク」です。これは、開発部門の社員が、変形

はシニア向けの製品はあまりありませんでしたと、谷川管理本部長。価格は高めでしたが、国内生産であることや優れた機能面を前面に打ち出し、会社を挙げて全国を地道に営業行脚。平成12年に発売開始以来、900万足の売り上げを記録。アサヒシューズ再建のシンボルの商品となりました。

性ひざ関節症と診断されたことがきっかけ。ひざのトラブルを予防できる靴をつくる」と決意し、医師や大学教授の協力を得て開発に着手しました。歩く時のひざの回旋運動が、加齢とともに不安定となることに着目。試作と失敗を繰り返し、苦労の末に、ひざの回旋運動をサポートする機能を持つスクリューを取り付けた靴「アサヒメディカルウォーク」が完成しました。これには、世界初の特許登録商品としての機能「SHM」機能を搭載しています。スクリューの色は、アサヒ(朝日)にちなみ、オレンジ色に統一。一目で「アサヒメディカルウォーク」と分かるように工夫。また、お客様に正しく製品を説明できる店舗でのみ販売するという「ブランド戦略で、着実に世の中に広まっています。

快歩主義&アサヒメディカルウォーク



安全・高品質の 「学び環境」をこころ

全工程を一貫して社内です

三原機工株式会社は、昭和28年に創業した国内唯一の教育用机・椅子の専門メーカーです。創業当初は金属加工の会社として農機具を製造していましたが、昭和40年代初め、学校机がオール木製から金属を用いるようになり、市場性を見出して参入。

現在では、北海道から沖縄まで、全国の小高い学校、幼稚園、塾、専門学校など幅広く使わ

れており、九州内のシェアは7割近くになります。おそらく大半の方は、学生時代、同社の製品を使っていたのではないのでしょうか。

創業から半世紀余り、次代を担う子どもたちのために努力を続けてきた同社。学校の机や椅子は、子どもが一番身近なものとして使う家具であるため、安全性と品質に最も配慮してきました。

取引先への営業から、製造も原材料の加工、溶接、塗装、組み立てに至るまで、全て同社が

従業員一丸となり安全・安心を提供

同社では、担当する作業を定期的にシフト。職人育成ではなく、会社組織としての従業員が製造しても、同じ品質の商品を提供できるように注力しています。また地元の高校・大学・特別支援学校からの新卒者採用を積極的に行っています。

お互いに助け合いながら成長し、一人ひとりが生き生きと働ける職場環境を整えています。



国内唯一
教育用机・椅子の専門メーカー



三原機工の製品「MD4560、MC-A」

設立 昭和28(1953)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市荒木町荒木1978-2
 代表者 代表取締役社長 柴田 耕治
 従業員数 56名
 事業内容 教育用机・椅子等の製造販売

公式サイトはこちら!





業界初VOCを排出しない 接着剤フィルムの開発



設立 昭和43(1968)年
 資本金 5,000万円
 本社所在地 久留米市津福本町上津留2305-10
 代表者 代表取締役 中島 幹雄
 従業員数 16名
 事業内容 工業用ゴム製品の開発・設計・加工

公式サイトはこちら!



下請けから提案型企業へ インベーションを核とした挑戦

下請け脱却へ研究開発に活路

昭和33年自動車部品メーカーの下請けとしてスタートした中島ゴム工業株式会社。その後、取引の幅を広げ、各種産業機械等や大手カメラメーカーにも製品を供給。特にデジカメのグリップ部品は国内有数のシェアを誇っています。着実に実績を重ねてきた同社ですが、中島社長の目は将来に向けていました。「下請け(成型メーカー)のままだと、価格競争は避けられない。特に自動車産業は競争の激しい業界。この世界で

オリジナル製品の開発と 新たなチャレンジ

そこで、積極的に研究開発に着手。平成27年、金属とゴムを接着する業界初のツール「加硫接着剤フィルムACULAH」を生み出します。従来のスプレー式接着剤に比べて接着工程の簡略化、接着性能の大幅アップ(従来の10倍の強度を表現。またVOC(有機溶剤)を出さないため環境にも優しい製品です。環境対応に敏感な欧州の自動車メーカーには既に納品済み。今後、国内自動車メーカーにも事業展開したいと考えています。

この技術は、経済産業省戦略的基盤技術高度化支援事業に採択、支援を受けたもの。「もちろん補助金も有り難かったが、これを機に産学官連携のチームができたこと、また、我々の挑戦を国が後押ししてくれた、社員のモチベーションが格段に上がったことが何より嬉しかった」と中島社長。現在、地元のコム会社や研究機関、行政と協力し、水素ステーションや燃料電池用のゴムパッキン等の開発を目指しています。インベーションに終わりなし。研究開発型企業に見事に進化した姿がここにあります。



「作る」から「創る」企業へ

海外まで生産拠点を拡大

戦後間もない昭和22年、靴製造販売大手メーカーから創業者が独立、作業用手袋の東興商会後の東和コーポレーションを創業しました。その後、高度経済成長の波に乗り、国内だけでなく海外でも同社製品が広く使われるようになりました。

現在は、生産拠点も佐賀工場(東部(上峰町)工場)のほか、マレーシア、中国(上海)、バンク

「トワロン」で国内市場を席巻

東和コーポレーションを代表する製品は、昭和43年に、自社開発したゴム手袋「トワロン」です。ゴム手袋は「かたくて丈夫」が常識だった当時、やわらかい、動きやすい、臭いが

ラテシユ、アメリカ(販売会社)などの海外へも進出を果たし、今では、手袋業界トップクラスに。特に「裏布付きフルコート天然ゴム手袋」は国内トップシェアを誇ります。

「新しい価値を生み出す会社でありたい。技術に裏打ちされたものであれば簡単に真似されません」と池本広報部長。チャンピオン企業となっても挑戦者の気持ちは変わりません。従業員のあふれる活力と豊かな想像力で「作る」企業から、「創る」企業に進化しています。

「あしたのジョー」とコラボしたトワロン



裏布付きフルコート天然ゴム手袋 国内トップシェア



設立 昭和22(1947)年
 資本金 5,500万円
 本社所在地 久留米市津福本町227
 代表者 代表取締役社長 渡辺 聡
 従業員数 171名
 事業内容 家庭用・工業用・作業用、各種ゴム手袋の製造・販売
 受賞歴等 平成19年「グッドデザイン賞」/平成27年特許庁「知財功労賞」(産業財産権制度活用優良企業等)/平成29年福岡県産業デザイン協議会「福岡デザインアワード」他

公式サイトはこちら!





100席以上の民間航空機用タイヤ 世界トップシェア



ブリヂストンの航空機用タイヤ

設立 昭和6(1931)年
 資本金 1,263億5,400万円
 本社所在地 東京都中央区京橋3丁目1-1
 久留米事業所 久留米市京町105
 代表者 取締役代表執行役CEO兼取締役会長 津谷 正明
 従業員数 142,669名
 事業内容 各種タイヤ・化成品・工業用品の製造、販売

公式サイトはこちら!



久留米発祥 世界No.1タイヤメーカー

久留米工場は「マザープラント」
 26カ国に180もの製造・開発拠点を有し、世界のタイヤ市場においてナンバーワンの地位を占めるタイヤメーカーブリヂストン。その誕生の地は久留米です。久留米工場はブリヂストン最初のタイヤ工場として、これまで様々なタイヤ製品を開発、製造し、世に送り出して来ました。世界的な企業に成長した今でも、発祥地にある久留米工場は中核の一つ。

「国内外の遠方から、お取引先様を久留米の地にお招きして、当社への理解を深めて頂くことでもあります」と語るのは、富澤総務部長です。久留米工場は、創業者石橋正二郎の考え方や企業理念を学べるマザープラント。海外工場の外国人幹部も含め、重要な研修・教育も久留米で行っています。

高度技術を要するタイヤを久留米で製造
 現在、久留米工場における主力製品は、航空機用タイヤと小型トラック用タイヤ。特に、過酷な

条件下で使用される航空機タイヤの製造には高度な技術が求められ、製造できる企業は世界でも限られています。ブリヂストンはその数少ないメーカーの一つであり、100席以上の民間航空機では世界で40%のシェアがあります。また、すり減った航空機用タイヤの表面部分を張り替え再利用(リトレット)も行つため、新品リトレットタイヤの提供に加え、データを基にした運行管理や機体整備、在庫管理などのソリューション事業にも力を入れています。

久留米には、石橋文化センター、久留米市美術館、久留米大学など市民の暮らしに直結するブリヂストンゆかりの施設も数多くあります。世の人々の楽しみと幸せの為に「を」を体現した創業者・石橋正二郎。その精神を受け継ぎ、ものづくりに久留米の中核を担う企業は、今も力強く発展を続けています。

久留米工場の全景



更生タイヤのトップメーカー



品質を重視し 循環型社会に貢献

安全性と耐久性を見極める目

日米ゴム株式会社は、戦後まもなく大手ゴムメーカーを退社した石丸忠勇氏が、国鉄貨物車輻および国鉄バスの更生(リサイクル)タイヤ製造を目的に創業しました。昭和30年、更生タイヤ工場としては、日本で最初にJIS表示認定工場となりました。

更生タイヤとは、古いタイヤの表面を削り、新しいゴムを貼り付けて製造するものです。安全性や耐久性の高い「台タイヤ」を見極める力が当社

社の強み。また、タイヤメーカーごとに異なる形状に対しても、それぞれの特徴に合わせて更生可能な技術とノウハウを有しています。そのため、日米ゴムの更生タイヤは、安全性・耐久性の費用対効果が新品と比べても遜色ありません。また、リサイクルしているため、環境にやさしく低コスト商品でもあります。

現在の主な事業の柱は、トラックやバスなどの業務用更生タイヤ部門、糸ゴム部門(おむつ用や衣料用など)、工業用部門(防眩材な

社)の強み。また、タイヤメーカーごとに異なる形状に対しても、それぞれの特徴に合わせて更生可能な技術とノウハウを有しています。そのため、日米ゴムの更生タイヤは、安全性・耐久性の費用対効果が新品と比べても遜色ありません。また、リサイクルしているため、環境にやさしく低コスト商品でもあります。

近年では大手タイヤメーカーも更生タイヤを取り扱うようになったため、競争は激しさを増しています。同社では、このような市場の変化に対して、新たな取り組みも始めました。現在、九州大学と協力企業8社とともに、「水素ステーションで使用可能なゴムパッキン」の開発を目指しています。常温下で、より密閉性と耐久性を高めるのが研究の鍵となっており、低温域ではほぼ実用化が可能に。地元企業の知恵と技を結集し、「ゴムの新たな可能性」を追求しています。

ゴムの新たな可能性を追求

更生タイヤ



設立 昭和22(1947)年
 資本金 2,200万円
 本社所在地 久留米市京町5-196
 代表者 代表取締役社長 石丸 茂夫
 従業員数 36名
 事業内容 更生タイヤ、工業用ゴム製品、糸ゴムの製造・販売

公式サイトはこちら!





株式会社オカモト商店

久留米絣をブランド化 伝統の技術で新しい製品づくり

設立 昭和46(1971)年
 資本金 1,200万円
 本社所在地 久留米市日吉町12-12
 代表者 代表取締役 野口 和彦
 従業員数 85名
 事業内容 久留米絣を使用した衣服、雑貨の製造卸・販売
 受賞歴等 平成27年経済産業省「ものづくり日本大賞」(経済産業大臣賞)

公式サイトはこちら!



株式会社ムーンスター



靴と向かい続けて145年 ゴム靴製造・販売国内No.1

設立 大正6(1917)年
 資本金 13億円
 本社所在地 久留米市白山町60番地
 代表者 代表取締役CEO 猪山 渡
 従業員数 881名
 事業内容 靴の製造販売(スニーカー、上履き、子ども靴、婦人靴、紳士靴、スポーツシューズ)
 受賞歴等 平成25年「グッドデザイン賞」(ロングライフデザイン賞) / 平成28年「グッドデザイン賞」 / 平成29年経済産業省「地域未来牽引企業」 / 平成30年「キッズデザイン賞」(11年連続受賞)

公式サイトはこちら!



品質に対する誇りの MADE IN KURUME

「スニーカーの街久留米」を発信

ゴム靴製造販売国内No.1。品質と履き心地にこだわってきた歴史を込めて、伝統のヴァルカナイズ製法を用いたスニーカーには「MADE IN KURUME」と刻印し、「スニーカーの街久留米」を世界へ発信しています。ムーンスターの靴づくりを代表するヴァルカナイズ製法は、生ゴムに硫黄を加え、熱反応によってソールとアッパーを接着させる方法

で、しなやかで丈夫な仕上がりと美しい風合を実現できる、昔ながらの製法です。

「スニーカーのデザイン、設計は変わりますが、品質と履き心地にこだわることは変わりません」と語るのは、大石総務課長。平成30年には、東京銀座に総合旗艦店「MOONSTAR Factory Ginza」をオープンし、世界に発信し続けます。

ムーンスターの「精品主義」

一つの靴が生み出されるまでには、蓄積された足型データをもとに企画し、デザイン、素材、身体機能、試作品の履き心地分析を徹底的に行い、各種検査機器による精査など、数々の基準をクリアしなければなりません。また、その過程で機械だけでなく多くの人の手が加わっています。「明治6年の創業以来、時代に合わせたさまざまな素材や機能を開発しながら、一足一足丁寧な仕事を心がけてきました」。

「私たちはこの姿勢を『精品主義』として、創業以来、絶対に妥協を許さないものづくり精神を貫いています」と語る大石総務課長。このこだわりも「MADE IN KURUME」なのです。



「儀右工門」ブランドの立ち上げ

久留米絣製品の製造、販売を手がけ、全国に14の直営店を展開する株式会社オカモト商店は、昭和25年に創業した久留米絣卸業から始まりました。「久留米絣は、織物なので密度が高く、丈夫で長く着用できるところが特長です。また、肌触りがよく、着ることに肌になじんで愛着が増す織物です」と話すのは、野口社長。

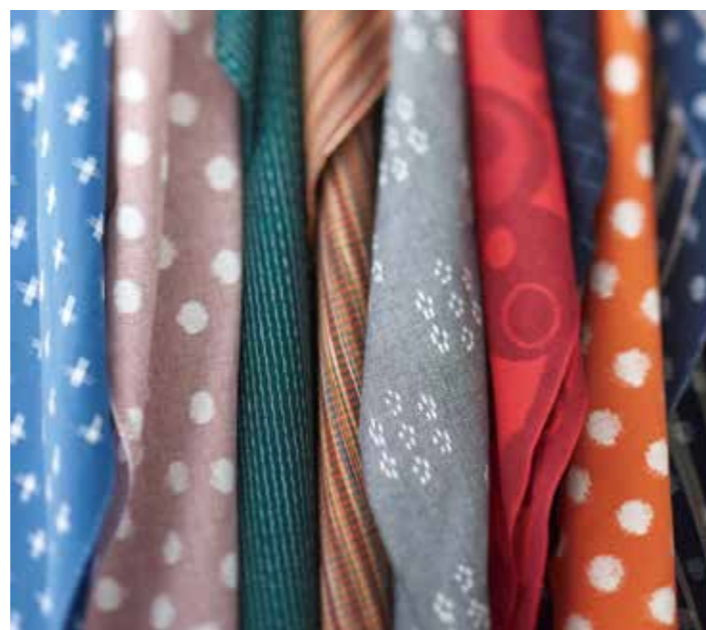
業界をネットワーク化し 久留米絣の価値向上へ

また、オカモト商店は織元と協同で「井桁の

オカモト商店では、昭和55年に久留米絣製品の製造と販売を開始。翌年、久留米絣のブランド化と、新しい顧客層の開拓を目指し、「儀右工門」ブランドを立ち上げました。「伝統を大切にしながら久留米絣の特長を活かし、現代に合う製品づくりを行っています」と野口社長。

会を立ち上げました。製造者(織元)、卸業者、そして小売業者をネットワーク化し、画期的な染色方法の立案、市場性のあるデザインの考案などを推進し、久留米絣の価値向上に日々、取り組んでいます。

かつては卸売業として、主に業界の川中の部分を担っていましたが、今では独自の販路開拓戦略として、久留米絣製品の催事やイベントも手がけています。そこで得ているのがインバウンド客や若者からの好反応。「川下である消費者の声を、製造者である川上に届けることで顧客満足度をアップさせ、業界全体の発展を支えるのが当社の役割だと考えています」。





久留米の伝統的工芸品
久留米絣の魅力在世の中に発信



設立 大正6(1917)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市中央町35-1
 代表取締役 西原 佳江
 従業員数 4名
 事業内容 久留米絣製品の製造・販売
 受賞歴 平成28年度経済産業省「The Wonder 500™」

公式サイトはこちら!



若い世代につなぐ糸

伝統を

オーダーメイドで、若い男性にも人気
 素朴な風合いと、力強いながらも柔らかく肌になじむ久留米絣。そんな久留米絣を使った製品のデザイン、製造、販売を手掛ける株式会社西原糸店。5代目となる西原取締役の曾祖父が、大正6年に創業した、糸織製製品の卸売店がその始まり。平成29年に創業100年を迎えました。4代目の時に小売業に転換し、それまで扱っていた軍手やタオルから、伝統的工芸品の久留米絣商品を扱うようになりましたと西原

取締役。
 現在、様々な絣生地の中から、オリジナルの日傘、ネクタイ、ハンカチ、お祝い袋などを製造、販売。お好みの生地で作る小物やワンピース、スーツのオーダーメイドも行っています。「スーツは、若い男性向けの久留米絣製品が少ないことに着目しデザインしました。スーツに適した生地を選び、洗練されたデザインにすることで久留米絣のイメージを変えたいと思っています。」

産学官金連携による取り組み
 西原取締役の目標は久留米絣を若い人に伝え、世界に発信すること。製作した「かすりピアネスタイ」は、日本が誇るべきすぐれた地方産品を海外に広く伝えていく経済産業省「The Wonder 500™」にも認定されています。また、産学官金連携にも力を入れ、久留米大学とともにファッションショーを開催し、若い世代に伝統文化を広める活動も行っています。久留米絣を使って製品を作る側として、地元のためにできる限りのことに積極的に取り組む、久留米愛あふれる西原取締役。糸はもう扱っていないのに西原糸店の社名を変えないのは、人と人が糸でつながる店にしたいとの思いからですと話してくれました。



額縁の製造、卸、販売
大手ECサイト13年連続売上No.1



「飾る」文化の創出に寄与

品質の高さでリピーター続出

創業以来、額縁の製造、卸、販売を行っている有限会社ないとう。社会環境、生活様式の変化から近年、業績は伸び悩んでいました。そうした中、現在の内藤専務が入社。新しい売り方を模索し、平成16年に額縁のネット販売をスタート。ありそでなかったビジネス手法が受け、新たな需要を開拓しました。以降、大手ECサイトの小売部門で13年連続売上上げNo.1を達成中です。

客層は20代から70代までと幅広く、既製商品からオーダーメイド商品まで、豊富なサイズを取り揃え、顧客のあらゆるニーズに応えます。また、自社工房併設により早期納品を実現しています。

ないとうの強みは額サイズの正確性。額縁に作品を入れた時、一般的な製品は誤差1mm以内ですが、同社の製品は誤差0.5mm以内と、より厳密なもので、飾ったときの見映えが格段に美しくなります。この高品質を維持するために、厳しい基準

技術とアイデアで新価値を

「額縁に付加価値を持たせる新商品の開発に力を入れた」と語るのは内藤社長。「お子様のファーストシューズ」「お祝い時のプリザードフラワー」など、額縁に収める作品の幅を広げるアイデアが次々と挙がります。設備投資にも積極的に取り組み、額縁に彫刻ができるレーザー彫刻機やアクリルボードに印刷できるUVプリンタの導入なども、顧客にさらなる価値を提供し、額縁の新たなサービスを創出していきます。

多種多様な額縁を製作



設立 平成10(1998)年
 資本金 300万円
 本社所在地 久留米市城島町江上本1209-2
 代表取締役 内藤 昌人
 従業員数 24名
 事業内容 額縁の製造、卸、販売

公式サイトはこちら!





シール印刷、日本トップクラス
独自のビジネスモデルで強さを発揮



紙器加工製品

顧客の要望を叶える トータルパッケージ企業

印刷紙器加工で地位を築く
昭和43年、進物用木箱の製造からスタートした株式会社丸信。当初は食品品を中心とした包装資材を取り扱っていました。その後、スーパーマーケット等での食品トレイも手掛けることになりました。そこで、バーコードシールや値引きシールなど、シール印刷の需要があることを見いだしました。昭和53年、自社でシール印刷を開始します。平成に入り、食品ラベルや包装を中心とした化粧箱とシール印刷が業務の柱となりました。

顧客と社員の満足度向上を目指す
また、顧客商品の販売促進に役立てるため、丸信の強みは、包装から販売促進まで、パッケージに関する全ての業務を自社で一貫して行えること。顧客のニーズをダイレクトかつスピーディーに商品開発へ反映させるため、社内デザイン部門も設置。現在20名以上のデザイナーが所属しています。このことで、より消費者に訴求力のある包装やシール印刷のデザイナーを顧客に提案できるようになりました。

自社でショッピングサイトを運営しています。そのノウハウを活かし、顧客自身のウェブ制作や通販事業のサポートなども始めました。全ては顧客の満足度を高めるためです。取引先の会社に短期就労をするなどユニークな社員教育も行っています。これも顧客の事をより理解するためのもの。さらに、働きやすい職場づくりも進めています。最近では、従業員の福利厚生の一環として、企業内保育所を開設しました。

包装会社がシール印刷・デザイン販売促進まで、パッケージに関するあらゆる業務を手掛けるのは全国でも希少。独自のビジネスモデルで強さを発揮しています。

公式サイトはこちら！



設立 昭和43(1968)年
資本金 4,500万円
本社所在地 久留米市山川市ノ上町7-20
代表者 代表取締役 平木 洋二
従業員数 430名
事業内容 食品・文具等の包装、デザイン、印刷加工等
受賞歴等 平成28年「第26回シールラベルコンテスト」(経済産業大臣賞)／平成29年「第27回シールラベルコンテスト」(日本印刷産業連合会会長賞)／平成30年「第29回 世界ラベルコンテスト」(最優秀賞)(審査員特別賞)



紙管、紙容器の例



長年のノウハウで 消費者ニーズに応じた紙製品を

ラップの芯から容器包装まで

昭和47年設立の株式会社丸栄紙管は、紙管・紙容器の製造販売会社です。創業当初は、主に松材を利用した木綿や薄板折箱などの包装材を製造。後に紙管の製造が主要事業となりました。「紙管とは紙を巻いて筒状にした管のこと。トレットペーパーの芯や家庭用ラップの芯(一般紙管)のほか、食品、菓子、酒、化粧品等の容器(紙管容器)としても使用されます。商圏は九州

のみならず関東・関西まで広がります。近年は容器にこだわるメーカーが増え、贈答用やイベント・企画物の紙管容器の需要が急増しています。平成25年には「R九州」なつ星で販売された高級焼酎の容器も手掛けました。「今後力を入れていく分野になる」と今村社長。

「ハイブリッド紙管」の開発

紙管容器の需要が急増し、自社の生産体制では注文を捌ききれなくなったため、協力会社を

探すことになりました。しかしながら紙管製造には特殊な技術が必要です。そこで同社は、平成30年「ハイブリッド紙管」を開発(実用新案登録)します。これは強度の高い紙管と比較的簡易な平巻紙管を組み合わせて一つにしたもので、コア部分を同社が、簡易部分を協力会社が製造します。強度はやや落ちますが、価格が安く、一部外注ができることで大量生産が可能となりました。

紙管製品は製造時に気温や湿度の影響を受け易く、繊細な技術が必要とされます。長年積み重ねてきた豊富なノウハウと高い技術力を活かし、安定した製品を生み出せるのが同社の強みです。



九州でも数少ない
紙管・紙容器の製造・販売

設立 昭和47(1972)年
資本金 2,000万円
本社所在地 久留米市城島町榑津888番地 1
代表者 代表取締役社長 今村泰生
従業員数 47名
事業内容 紙管及び紙容器製造販売

公式サイトはこちら！



住宅用・浴室用グレーチング
全国トップシェア



樹脂グレーチング

設立 昭和41(1966)年
 資本金 2,000万円
 本社所在地 久留米市中央町28番地7
 代表者 代表取締役社長 島 信英
 従業員数 33名
 事業内容 住宅機器・建築部材・ユニバーサルデザイン商品
 製造、販売
 受賞歴等 平成29年「国際建築展示会ARCHIDEX2017」(NEW
 PRODUCT AWRAD受賞)

公式サイトは
こちら!



木製グレーチング

高級グレーチングで海外の
ラグジュアリー市場を狙う

シニア・インバウンド、災害に対応
 創業明治4年の株式会社シマブン。ルーツは久留米藩の瓦葺棟梁だった創業者が瓦製造、販売を始めたことに遡ります。その後、瓦の需要減により建材店に転換。徐々に住宅資材の取り扱いが増え、昭和58年、排水ユニット「小川くん」を開発。これを機に住宅の水回り浴槽、洗面台、トイレのグレーチング(排水溝の蓋)事業に特化。現在に至ります。特に医療福祉設備向けグレーチング市場での納入件数シェア28%。住宅在来工法浴室

シニア90%を占め、いずれも国内No.1のニッチトップ企業です。
 当初、一般住宅がメインだった顧客は、シニア市場(老人ホーム、病院、バリアフリー住宅など)へ広がりました。最近では、インバウンド増加によるホテル建設増を受けて、ホテル業界への商品供給も急増。福岡県工業技術センター、久留米リサーチパークなどの協力によって開発した「木製グレーチング」は、高級ホテル・リゾートホテルに採用されています。今後注目しているのは、屋外用グレーチング。近年の豪雨

災害を機に、屋外排水機能の増強が図られている。その市場に食い込みたい」と島社長。
海外市場もターゲット
 将来的な海外市場の開拓も視野に入れています。海外展示会にも積極的に出展。現地の高級ホテル・リゾート、高級マンションなど、高所得者層向け市場の販路開拓にも確かな手応えを感じています。
 「アンテナを高く張り、知恵を絞って、我々の商品が活かせる新たな市場を常に探しています。島家のDNAかなと島社長は笑って話します。瓦建築資材で始まった生業は、グレーチングに形を変えましたが、新しいものを探す姿勢は今も昔も変わりません。

プール用樹脂グレーチング



伝統継承と新たな挑戦

城島瓦400年の歴史を受け継ぐ

大正2年創業の歴史ある洪田瓦工場は、400年の歴史がある城島瓦の製造を行う会社です。城島瓦の歴史は古く、江戸時代まで遡ります。文献に「関ヶ原の戦後、丹波の国より有馬公が瓦工を伴って、筑後に封ぜられてより瓦業興る」と語られています。お城には大量の瓦が必要。城島では質の良い粘土が豊富に取れたことから、この地で瓦の製造が始まったと言われます。以後、筑後

新旧の技術を見せる取り組み

洪田瓦工場では伝統を守りながらも、新たな取り組みを行っています。その一つが「いぶし瓦製法を応用した『軽量加飾壁建材』の開発です。軽量かつ精密な寸法、そして最も重要な再現

川を使った水運もあり、最盛期には九州一円に出荷されました。
 住環境の変化もあり、現在、同社では専用の瓦の他、床用敷瓦、外壁用瓦などを製造しています。

性。複雑なデザインの瓦材を何十枚も複写製作できます。この技術で作成した内装用瓦材は、平成31年春、運行開始予定の観光列車のキッチン壁面タイルや洗面台などに採用されています。家屋と違い動く列車では、車輛の震動に耐えられる形状や強度など多くの条件をクリアする高い技術力が求められました。
 また、城島瓦の美しい光沢を活かすため、3Dプリンタを組み合わせたオブジェ、鉢や灯りとり、花器などの独創的なデザイン瓦の製作も手がけています。瓦材の新しい魅力を引き出すことで、新たなニーズを生み出しています。
 城島瓦の魅力を次世代に伝えることにも熱心です。観光客や地元の子供たちを対象にした鬼瓦の製作体験にも取り組んでいます。この地からいただいた恩恵を地域に還元したいという思いからです。
 (※)引用 城島瓦協同組合ホームページより



城島瓦の伝統製法を受け継ぐ老舗瓦製造会社



設立 大正2(1913)年
 資本金 ー
 本社所在地 久留米市城島町榎津910-3
 代表者 洪田 良一
 従業員数 3名
 事業内容 城島瓦の製造・販売

鉄道映像のエキスパート
国内売り上げNo.1



設立 昭和58(1983)年
資本金 1,000万円
本社所在地 久留米市梅満町15-8
代表者 代表取締役 山下 豊
従業員数 25名
事業内容 鉄道関連映像ソフト、高画質高音質ヒーリングソフト(DVD、ブルーレイ等)ほか、映像、映画の制作・販売など
受賞歴等 平成21年「ギネス世界記録 認定」/「AIS第8回ルミエール・アワード」(ベストUHD賞[USA]) / 「ルミエール・ジャパン・アワード2016」(4K部門 グランプリ) / 「DEGジャパン・アワード」(ブルーレイ大賞(第2・4・5・7回 ベスト高画質賞/第3・9回 審査員特別賞)) / 「HiVi グランプリ2016」(企画特別賞) 他

公式サイトはこちら!



最新技術と高品質映像で
数々の賞を受賞

始まりは廃止路線の鉄道映像
ビコム株式会社は、元TV局のカメラマンだった山下社長が創業した企業です。昭和60年代、国鉄の民営化を控え全国各地で赤字ローカル線が廃止された時、「地元九州の路線の記録を残しておかないと」という思いから撮影を始めましたと山下社長。昭和60年、九州の鉄道映像を通販で販売する、予想以上に人気があり、一定のファンがいることに気づいた山下社長は、その後、本格的に鉄道

4Kはもうそろそろ、8K技術も導入
久留米が本拠地のため、首都圏と違い、高品質な作品を制作するための機材や技術を持つ外注先がありませんでした。そのために自社で機材を揃え、技術者を育成。このことが結果的に、独自ノウハウの蓄積と他社との差別化につながりました。

映像作品を作り始めました。現在では、鉄道ソフトの売り上げ全国ナンバーワンの地位を確立しています。また、販売網も自社で確立し、各種映像ソフトの制作から販売まで一貫して行っていることも強みです。
「リラクシリーズ」という、国内やハワイなどの風景を中心に撮影されたヒーリング系ソフトも制作、販売。高画質・高品質に特化した映像ソフトは、DEGブルーレイ大賞を6回受賞しています。
国内で他に先駆けて導入した最新技術の4K HDR Ultra HDブルーレイソフト「宮古島はハリウッドなど国内外で数多くの賞を受賞しています。」「世界自然遺産 小笠原(ポニンブルーの海)」「(下部写真左下) Ultra HDブルーレイ作品」さらに、8Kを取り入れた映像ソフトも制作。同社の美しさとリアリティの追求は、とどまることを知りません。



モノ売りのから「ネット売り」へ

昭和39年、久留米市に初代橋本幸次郎が創業して以来、橋本事務機株式会社は「事務機の専門店」として地元久留米市を中心に、官公庁をはじめ数多くの企業との信頼関係を築いてきました。同社は「仕事を通じて地域社会に貢献する」をスローガンに、新たな仕組みや価値を創造する独自性のある会社を目指しています。

久留米絨を使った新しい商品開発

久留米絨の特長を活かして
的を射る

日頃より久留米絨のシャツを愛用する橋本社長。久留米シティプラザの建設計画が持ち上がった際、「久留米らしいものを取り入れた商品を作りたい」との思いから、平成25年、久留米商工会議所や織元などと「久留米絨プロジェクト」を立ち上げました。色移りにくい染料や劇場空間になじむ色柄などを研究し、平成28年、久留米絨調の椅子をプラザの「久留米座」に納品しま

す。その企画・デザイン力が目をひき、久留米絨を使ったブラインドの製作を手掛けることに。開発に当たっては、反物からブラインド幅分を裁断すると絨柄が途中で切れてしまうという悩みが。そこで、織元と共同でブラインド幅に合う、絨の美しさを活かしたデザインを考案するなど細かい配慮が行われました。「採用した矢絨柄は突き進みを射る」とことから縁起がいい」と橋本社長。さらに特殊な防災加工処理も施し「久留米絨パーチカルブラインド」が誕生。歴史ある伝統工芸品の良さを引き出したこれまでにない商品として注目されています。
「この経験を生かし、今後、地域の伝統工芸品を活用したオリジナル商品のトータルプロデュースも手がけてみたい」と橋本社長。そうする事で、地域社会に貢献したいと考えています。

施行例:久留米シティプラザ



久留米絨パーチカルブラインド
伝統工芸品へのチャレンジ



設立 昭和39(1964)年
資本金 1,000万円
本社所在地 久留米市中央町20-32
代表者 代表取締役社長 橋本 和幸
従業員数 14人
事業内容 オフィス用ビジネス機器・MFP等の提案販売&メンテナンス・「久留米絨パーチカルブラインド」の企画・製造・販売・施工 など
受賞歴等 平成26年福岡県産業デザイン協議会「福岡デザインアワード2016」(入賞)

公式サイトはこちら!



施行例:上は久留米工業大学、下は久留米商工会議所



「トライク」を一から製造できる専門店

設立 平成20(2008)年
 資本金 300万円
 本社所在地 久留米市野伏間1-20-66
 代表者 皆川 明
 従業員数 2名
 事業内容 トライク(三輪オートバイ)の製造、販売

公式サイトはこちら!



ユーザーと一緒に夢に乗り出す

他にはないオリジナル性が強み
 A&Mコレクションは三輪オートバイ「トライク」の製造・販売を行っている会社です。皆川代表は、幼い頃から車が大好き。自分でデザインした物を作りたい一心で様々なカスタムカーの製作を手掛け、たどり着いたのがトライク製作だったそうです。

「トライクは世の中になく新しい乗り物を生み出す楽しみがあります」と語る皆川代表。同社では、設計、デザイン、穿孔、旋盤、溶接などを一

自由と安全を両立した1台を

公道を走る乗り物であることから安全面は最重要視するポイントです。国の審査基準をクリア

貴して行っています。皆川代表の手から生み出されるトライクはオリジナル性が高く、他にはない一点物の作品です。特にこだわっているのがデザイン。ユーザーからは「お任せ」のオーダーも多く、期待に応えていくための新しい知識と技術の修得に心血を注いでいます。その姿勢が、ファンから熱い支持を集めています。

アするためにCADによる設計、強度計算、測定機器によるチェック、そして審査書類の作成まで全てを手掛けており、それが同社の強みでもあります。

今後は、「高齢のバイクユーザー向けに、楽に取り回しができ、バイクのように体重移動で車体を倒してカーブを曲がる楽しさを実現したトライクづくりに励みたい」と皆川代表。

「ものづくりに奥が深く終わりがありません。忙しいけれど、好きなことをやっている充実感があります。将来の目標は、トライクだけでなく、ピックアップ(トラック)やけん引トラクターも自社でデザイン、製作すること。事業の柱を3本にしたいです」と話していました。まだまだ皆川代表の挑戦は続きそうです。



「抜型」の出荷数九州No.1

設立 昭和62(1987)年
 資本金 1,000万円
 本社所在地 久留米市梅満町1597-5
 代表取締役社長 森崎 准一
 従業員数 50名
 事業内容 各種抜型製造・カッティングサービス・パッケージング企画デザイン・関連資材販売・カット&デザイン

公式サイトはこちら!



高いデザイン力と技術で多様なニーズに応え続ける

幅広い分野に用途がある抜型

株式会社モリサキは、昭和46年創業の抜型メーカーです。抜型とは、ペニヤや樹脂などのボードに刃材を埋め込んだ型のこと。紙や布、プラスチックなどを特定の形に切り抜くために使われます。

抜型は、お客様の生産現場で、材料を正確にカットし、かつ量産するために必要です。お酒類の化粧箱様々なギフト箱、ディスプレイPOP

などに使われるほか、自動車や精密機器に関連するフェルトやガセット、弱電関連部材なども抜型を基につくられています。

紙器から精密機器まで、幅広い製品に使う抜型の製作を可能にするのは、最新のテクノロジと、モリサキが誇る職人技。抜型の出荷数では九州No.1の実績です。

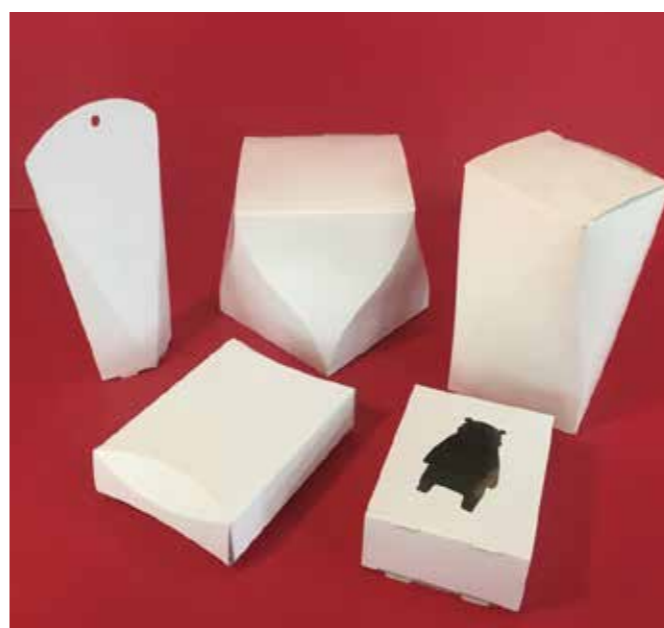
企画やカッティングにも対応

当初は、お客様からの仕様通りに抜型をつ

くっていました。化粧箱等のデザイン性が高まり、お客様から提案を求められる機会が増加。そこで、パッケージングの企画・デザインから、抜型製作、カッティングサービスも行うようになりました。

企画やデザインにおいては、お客様の生産現場での製造工程やエンドユーザーまでも考慮して、お客様が思い描くイメージをデザイナーが具現化。多様な産業のニーズに応えてきた経験と、あらかじめ抜型を考慮してデザインできる強みを活かしたサービスを提供しています。

近年、その強みを活かして、いろいろなデザインに対応できる「Cut & Design」を立ち上げ、第一弾として、商業空間向け店舗什器を展開。洗練されたスタイルや組み立て式でサイズオーダーも可能なデザインが好評です。



「ベリカバー」を考案 ホテルアメニティグッズ全国トップシェア

設立 昭和48(1973)年
 資本金 6,500万円
 本社所在地 久留米市津福本町2320-16
 代表取締役社長 國分 信徳
 従業員数 47名
 事業内容 ベリカバー、各種産業用カバー、ショッピング
 バッグ、ホテル用アメニティグッズの製造・販売

公式サイトは
こちら!



「包む」から心を癒す未来へ

超ロングセラーの「ベリカバー」

VC工業株式会社は、昭和37年創業者である廣瀬幸正氏による「ベリカバー」の考案から始まりました。ベリカバーとは、井ぶりなどを出前する際、汁がこぼれないように被せる、ポリエチレンにゴムが付いたカバーのこと。

製造機械を開発したそうです。当時出前の片手運転が、道路交通法で取り締まられるという時代背景もあり、飲食店を中心に全国に広まりました。創業以来の超ロングセラー商品です。と國分社長。ベリカバーの名は、「便利カバー」からの造語で、社名のVCもそこから付けられました。

ホテルアメニティも主力事業に

時代の変化にともない、飲食店向けのベリカバーの他、産業用カバー、機械カバー、理美容室

の耳カバーなどに用途が広がっています。

現在は、ホテルのアメニティやショッピングバッグ、エコバッグ(不織布)、ポリバッグなどの製造、販売も主力事業となりました。ホテル用のシャワーキャップやフリンなどを中国の子会社で製造しているほか、各種商品のアセンブリも行い、得意な物流を活かし、短納期でお客様へ届けています。主な販路はシティホテル・ビジネスホテル・旅館などで、近年インハウンドの増加により出荷数も年々伸びています。また、ITシステムをいち早く導入し、品質生産物流管理を徹底、全国のお客様の声に基づき、正確で、かつ迅速に対応していることも強みです。

「今後は、ベリカバー発明の原点に立ち返り、新たな商品開発にも力を入れたいと思っています。社名のVCの意味が「Value Creation」となることを目指します」。



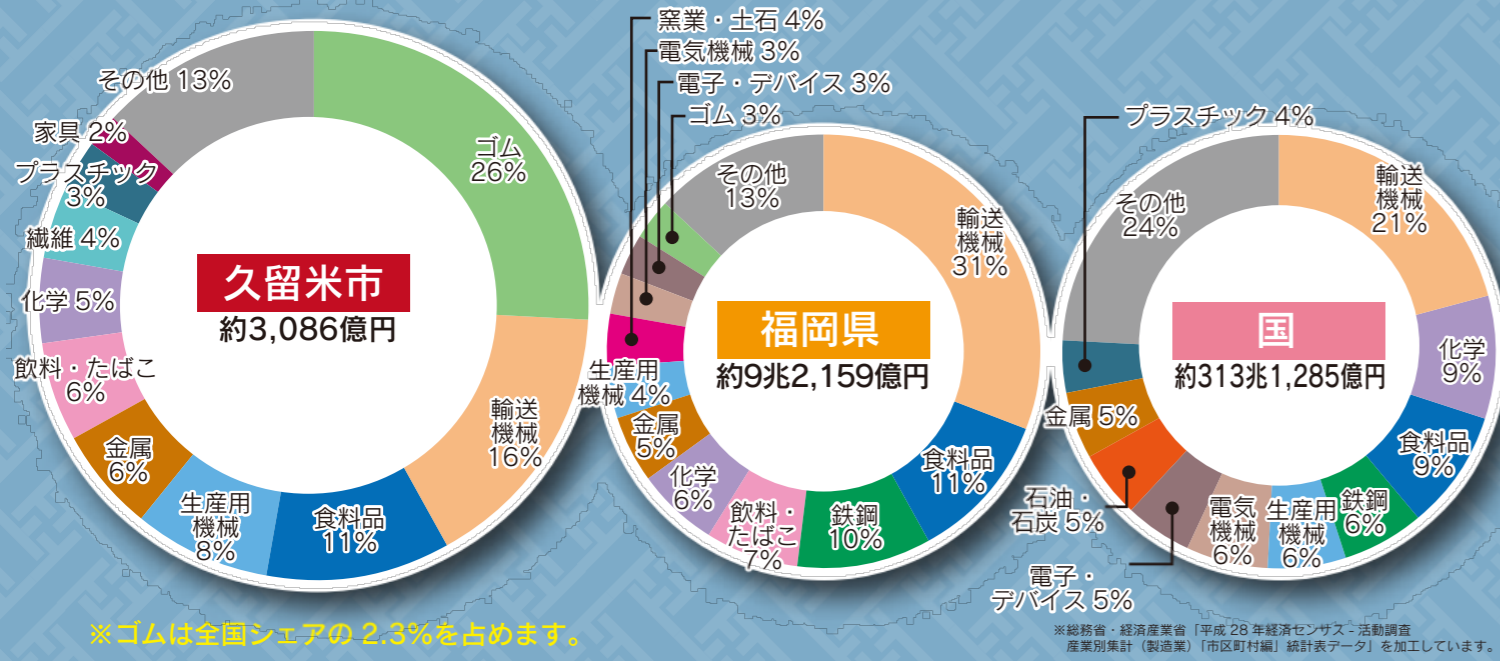
chapter2

久留米のものづくり情報

久留米
 輝くものづくり企業事例集
 積み重ねてきた知恵と技

製造品出荷額等の構成比

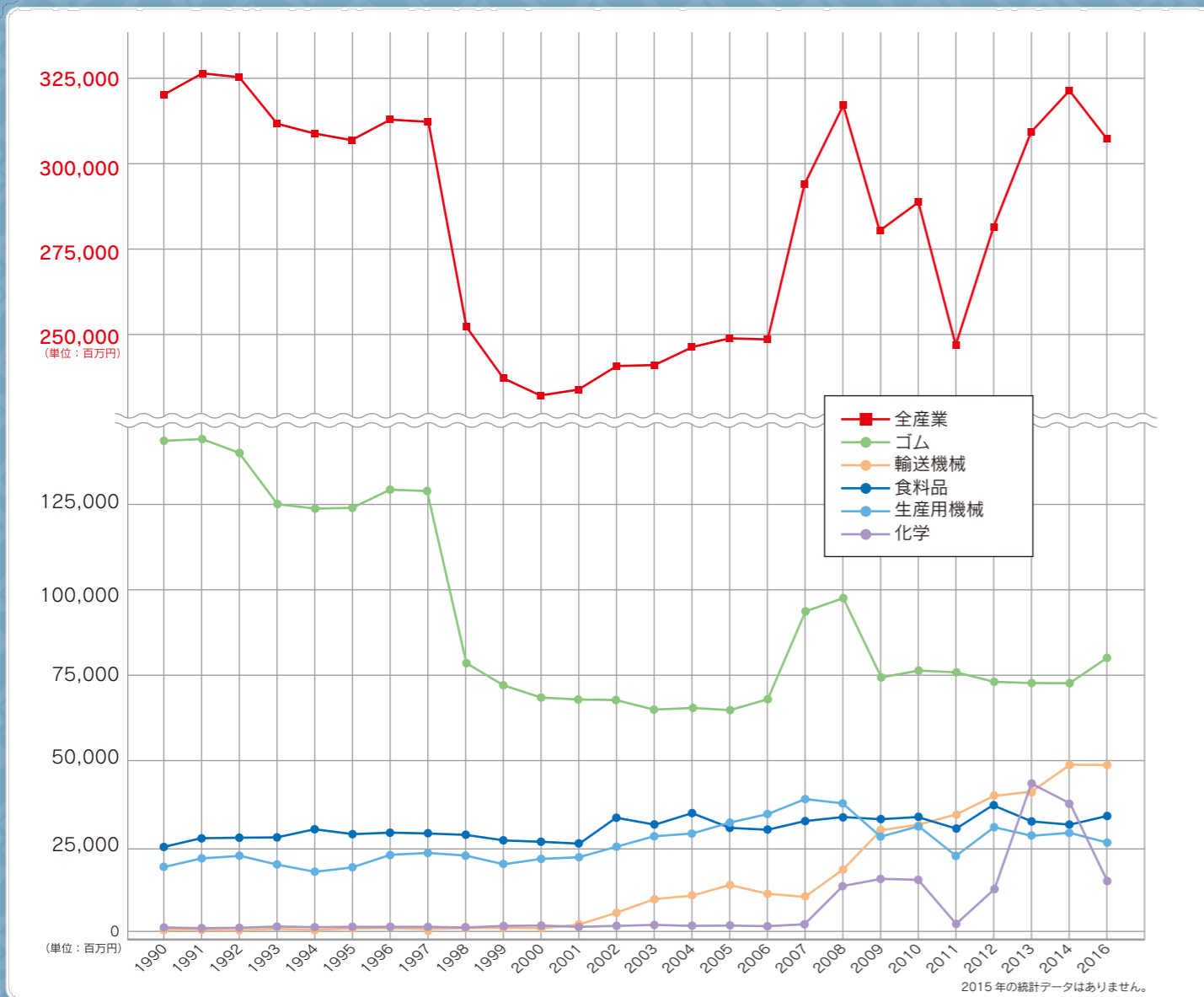
※従業者4人以上の事務所を調査対象としたデータです。



※ゴムは全国シェアの2.3%を占めます。

製造品出荷額等の推移 (久留米市)

※従業者4人以上の事務所を調査対象としたデータです。



久留米市は、九州の北部、福岡県南西部に位置し、人口約30万6千人の福岡県第3の都市です。久留米市の製造品出荷額等は県内第6位。3,086億円*と県内でも有数の製造拠点です。様々な産業がバランス良く存在するのが特長です。

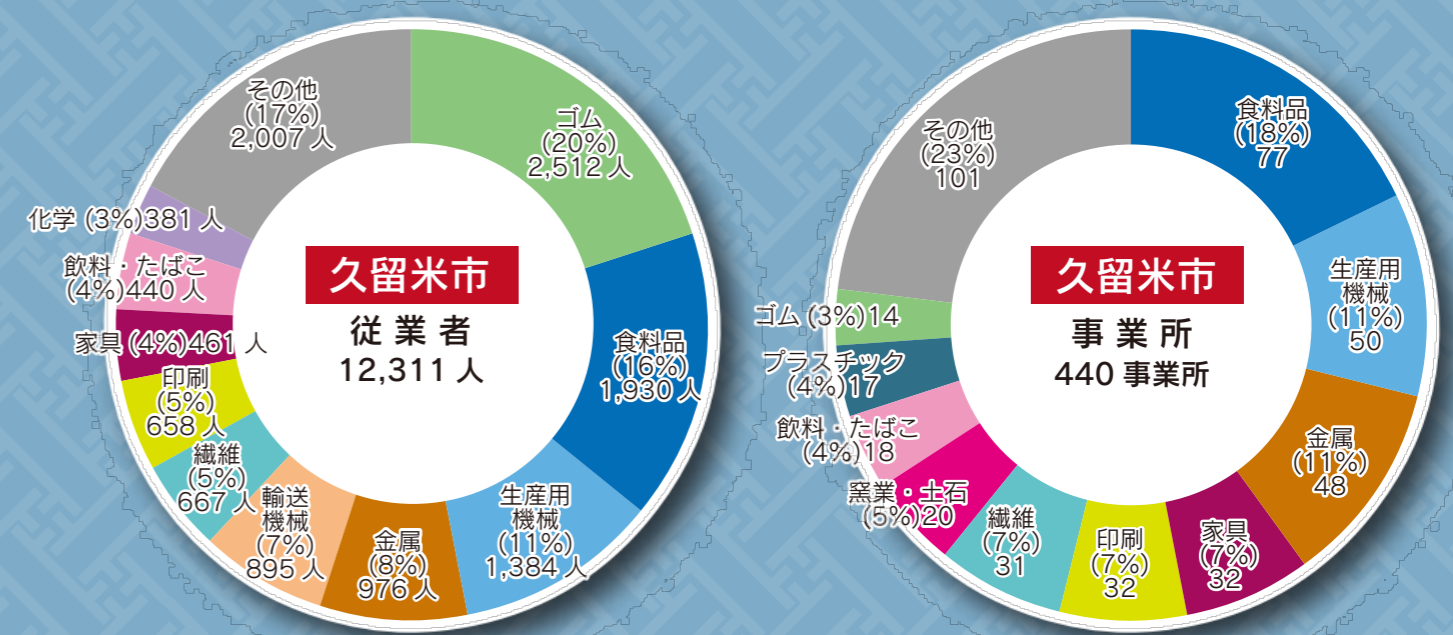
※総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査 産業別集計(製造業)「市区町村編」統計表データ」より

久留米市の概要



従業者・事業所の構成比

※従業者4人以上の事務所を調査対象としたデータです。



※総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査 産業別集計(製造業)「市区町村編」統計表データ」を加工しています。

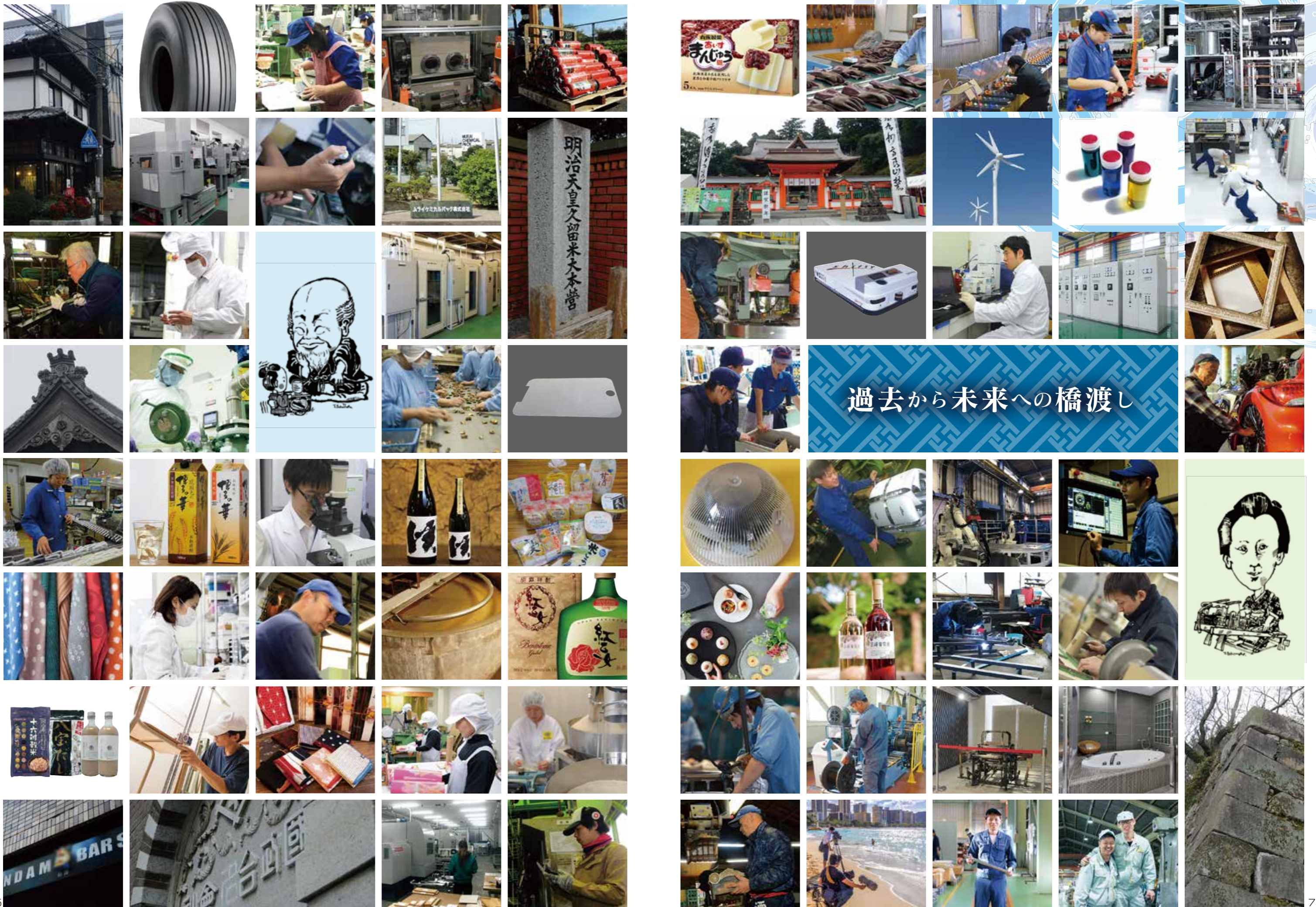
※グラフの各年は「福岡県の工業(統計表)」を加工しています。
2012年は総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」(製造業に関する確報)を加工しています。
2016年は総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査産業別集計」(製造業)を加工しています。



久留米所在のものづくり支援機関

- | | |
|---|--|
| <p>62 福岡県工業技術センター 生物食品研究所
住所：久留米市合川町 1465-5
TEL：0942-30-6644(代表)
食品・バイオ関連分野における技術支援</p> <p>63 株式会社久留米リサーチ・パーク
住所：久留米市百年公園 1-1
TEL：0942-37-6111(代表)
地域企業の研究開発支援、
バイオ産業関連企業の創出・育成支援</p> | <p>64 久留米ビジネスプラザ・
久留米知的財産支援センター
住所：久留米市宮ノ陣四丁目 29-11
TEL：0942-31-3104(代表)
起業・新分野進出の支援、
知的財産の普及活用</p> |
|---|--|

- | | | |
|---|--|--|
| <p>1 アイスマン株式会社
2 株式会社アークライズジャパン
3 株式会社ウエイクフィールド
4 株式会社栄電舎
5 北原ウエルテック株式会社
6 株式会社九州栄電社
7 株式会社ケンコントロールズ
8 コックス株式会社
9 四恩システム株式会社
10 大電株式会社
11 高木鉄工株式会社
12 武井電機工業株式会社
13 津福工業株式会社
14 株式会社日本風洞製作所
15 株式会社富士製作所
16 株式会社森鐵工所
17 LE システム株式会社
18 兼貞物産株式会社
19 株式会社巨峰ワイン
20 サクラみそ食品株式会社
21 株式会社種商
22 福德長酒類株式会社久留米工場</p> | <p>23 プレットサンフーズ株式会社
24 ベストアメニティ株式会社
25 株式会社紅乙女酒造
26 丸永製菓株式会社
27 株式会社森光商店
28 合資会社若竹屋酒造場
29 兼定興産株式会社
30 株式会社九州メディカル
31 株式会社創世エンジニアリング
32 株式会社日本生物製剤
33 ビジョンバイオ株式会社
34 株式会社ボナック
35 まるは油脂化学株式会社
36 ムライケミカルパック株式会社
37 伊藤産業株式会社
38 有限会社江口へら鉸り製作所
39 株式会社古賀歯車製作所
40 株式会社東洋硬化
41 平井鍍金工業株式会社
42 株式会社松本商店
43 三原機工株式会社
44 アサヒシューズ株式会社</p> | <p>45 株式会社東和コーポレーション
46 中島ゴム工業株式会社
47 日米ゴム株式会社
48 株式会社プリチストン久留米工場
49 株式会社ムーンスター
50 株式会社オカモト商店
51 有限会社ないとう
52 株式会社西原糸店
53 株式会社丸栄紙管
54 株式会社丸信
55 浜田瓦工場
56 株式会社シマブン
57 橋本事務機株式会社
58 ビコム株式会社
59 株式会社モリスキ
60 A&Mコレクション
61 VC工業株式会社</p> |
|---|--|--|



過去から未来への橋渡し

明治天皇久留米大本營



編集後記

よく晴れた日、高良山から眼下の景色を眺めます。東西に流れる筑後川、緑の田畑と街並みが広がる筑後平野。豊かな恵みがここに 있습니다。

久留米は、歴史的に「ものづくり」が盛んな土地です。優れた知恵や技を持つ企業がたくさんあります。

「ニッチトップ」、「オンリーワン」、「業界初」、「縁の下の力持ち」・・・キラリと光る企業の存在が、この地の豊かさに彩りを添えます。

「地元の自慢を広く知ってもらいたい」

皆で意見を出し合いながら、事例集づくりが始まりました。

知ってもらうためには、自らが学び、知ること。産業施策は、日々の企業活動が営まれる現場にこそ宿ります。

取材を通してみえてくる、経営者の思い。生業の背景にある歴史とこれまでの歩み。新たな試みと研鑽の積み重ね。

「ものづくり」の矜持は、先人から私たちへ、そして次の世代に受け継がれていきます。

昔と今はつながっていることに気づかされました。

久留米にはたくさんの良いものがあります。ぜひお越しいただき、ご自身の目でみて、感じて下さい。

最後に、本冊子の制作にあたり、幅広い見地からご検討をいただきました選定委員会の皆さまをはじめ、ご協力いただきましたすべての方に、心から感謝申し上げます。

久留米 輝くものづくり企業事例集 ～積み重ねてきた知恵と技～

平成 31 年 2 月 第 1 版 発行

久留米市 商工観光労働部 商工政策課
〒830-8520 福岡県久留米市城南町 15 番地 3

協 力 久留米市産業振興協議会「企業の成長支援推進グループ」

発 行 所 株式会社 談
福岡県福岡市中央区天神 4 丁目 2-36 天神第一ビル 4F
TEL 092-761-8057

- 本書の内容の一部または全部を無断転載することを禁止します。
- 本書の内容の複製または改変などを許可なく行うことを禁止します。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- 記事中の内容は 2018 年 12 月現在の情報に基づいたものです。



久留米市